

非政府組織（NGOs）

- 27.01 2004 年 12 月発行 AI 報告書「犯罪被害者に猶予はなく、犯罪者が罪を問われないスーダン」（Sudan: No one to complain to: No respite for the victims, impunity for the perpetrators）には次のように記載されている。

「AI は長期にわたって、恣意的逮捕、容疑または裁判不在の長期拘束及びスーダン政府による弁護士及び人権活動家への嫌がらせに関する文書を発表してきた。このような不当な行いがまかり通っている背景には、政府の計画的な政策があり、正当な人権保護活動を行っている人たちの基本的人権を侵害しているばかりか、被害者にさらなる恐怖感を与えるものである。」 [16r]（9 ページ）

- 27.02 2006 年版 USSD 報告書には次のように記載されている。

「スーダンには、現地の様々な人権活動団体があるが、特に性別に基づく暴力について報告している団体に対して、政府の妨害が行われている。政府は一般的に、国内の人権団体に対して非協力的である。現地の大きな NGOs には SOAT 及び Sudan Development Organization がある。これらの団体を黙らせるために、政府は間違った情報を広げることによって活動を妨害することが頻繁にある。例えば、国内の活動職員の脅迫、性的暴力の被害者を守る活動をしている職員に対する拘束及び逮捕を通じて、現地の NGOs が継続的な活動妨害を受けるという事態が生じている。政府治安部隊は頻繁に Criminal Act の下で人道支援団体のスタッフを拘束しており、通常彼らには、政府に関する間違った情報を広めたという容疑がかけられている。」 [3a]（第 4 節）

- 27.03 SOAT は 2005 年 10 月、2005 年 5 月に IDP s 収容の Soba Aradi キャンプで起こった暴動に続いて逮捕された人々の弁護を行っている弁護士が逮捕されたことを報じた。Mohamed Ahmed 弁護士は Mayo 警察署に拘束され、家族及び他の弁護士との接触を断たれた。彼は、警察署内で拷問されたと証言している。警察による厳しい尋問を受け暴行されたと報じられている。 [15am]

- 27.04 AI は 2006 年 1 月、国内及び国際的な NGO 団体、国連からの代表 2 人及び職員が参加し首都 Khartoum で開かれた NGO 会議の国内及び国際的団体の代表が逮捕されたことについて伝えている。この会議は、同地域の平和と正義に関する問題について話し合うことを目的として、アフ

リカ連合会議と同時並行で行われていた。**[16ai]** 全参加者の解放直後、その中の 2 人は国家治安当局の政治部局から電話を受け、治安職員と会うように要請された。Reporters Sans Frontieres のフリージャーナリストであり、SOAT とも協力していた 49 歳の Faisal al Baqir 氏、同会議の議長の 1 人であり、現地 NGO の Amal Centre 及び Khartoum Centre for Human Rights and Environmental Development の代表でもある 60 歳の Nagib Najmedin 氏の 2 人は、Political Section of Sudanese National Security の Saleh al Obeid 局長に会うため自宅から彼の下へ連れて行かれた。そこで彼らは、会議に関しては何の問題もないが、「タイミングが良くない」と注意を受けた。つまり、アフリカ連合会議が開催されているときに同時並行で会議を行うのは扇情的であるというメッセージであった。（2006 年 1 月 23 日付 AI）**[16ai]**

西スーダン（ダルフル）

27.05 2006 年版 USSD 報告書には次のように記載されている。

「政府は、ダルフルで起こった出来事によって国際的な NGOs の監視レベルが高まったことに対して頻繁に抵抗することが多くなった。政府は同地方で NGO が活動しにくくなるように、ビザの発給を遅らせたり、税関で活動用の道具及び支援物資を没収したり、国内の移動を禁じたり、人道支援活動を妨害したりした。」**[3a]（第 4 節）**

27.06 2006 年版 USSD 報告書にはさらに次のように記載されている。

「スーダンにおける人道支援活動を規制する政府の Humanitarian Aid Commission (HAC) は、NGO のダルフルでの活動を妨害し続け、全ての NGOs の国内での活動に対して HAC への登録を義務付けた。HAC は 2005 年 3 月 21 日、NGOs の国内職員の採用に関して強い権限を与えられ、ダルフルで新しい活動員を採用するのが大幅に遅れることになった。HAC は NGO に関する規則を不定期に変更し、事前の通知もなく変更することも多かった。2005 年 8 月に大統領令が発布され、国際的な NGO に対して再登録が義務付けられ、登録抹消に対する訴訟を起こすことが認められていなかった。」**[3a]（第 4 節）**

27.07 IRIN は 2005 年 5 月、以下のように伝えている。「MSF の報告によると、スーダン政府当局は、同国西部のダルフル地方で何百人もの女性が強姦されたという同医療団体の報告に対して、同団体の職員 2 人を逮

捕した。**[10cx]** SOAT 及び AI もこの逮捕について報じている。**[15a]**
[16i] 2005 年 6 月、MSF の職員 2 人に対する容疑は全て撤回された。
(2005 年 6 月 20 日付 IRIN) **[10cy]**

27.08 2006 年 3 月版国連事務総長報告書には次のように記載されている。

「はっきりと World Food Programme という名称が書かれているものも含めて、商業目的トラック及び人道支援用トラックが武装グループにハイジャックされる事件が頻発している。昨年 12 月の治安情勢悪化によって、ダルフル西部の大部分の地域において国連はさらに追加の予防策を取らなければいけなくなっている。その結果、国連職員と緊急支援スタッフ（緊急の食糧及び栄養状態改善、保健、水及び衛生改善、避難所業務、難民保護及び人権監視）しか制限地域に留まることができなくなってしまった。」 **[6b]** (3 ページ)

27.09 同報告書にはさらに次のように記載されている。「アクセスが限られているダルフル西部とは対照的に、ダルフル北部では州全土で支援活動が非常にスムーズに行われており、比較的安定した状況である。」
[6b] (4 ページ)

市民権及び国籍

28.01 スーダン国家暫定憲法（INC）の 2005 年 3 月付草案の第 7 条には次のように規定されている。

- (1) 市民権は、これを全てのスーダン国民の権利及び義務の基礎となるものとする。
- (2) スーダン人の母親または父親の下に生まれた者は何人も、スーダン市民権及びスーダン国籍を保持するための侵すことのできない権利を有することとする。
- (3) 法は、市民権及び帰化権を規定するものとする。全ての帰化したスーダン人は、法の規定による場合を除いては、取得した市民権を剥奪されることがあってはならないものとする。
- (4) スーダン国民は、法の定めるところに従って、他国の国籍を取得することができることとする。[12d] (5 ページ)

28.02 El Karib 及び Medani 提供の情報を掲載している 2001 年 11 月 24 日付の FCO の書簡、FCO の協力団体の主張及び 2001 年 3 月付の US Office of Personnel Management (US OPM) の 世界の市民権法 (Citizenship Laws of the World) と題する報告書の要点は 3 者とも一致しており、スーダン国籍または市民権は、子供の誕生時点で父親がスーダン人である場合、父方の家系に従って継承されるというふうに規定されている。**[4f] (p1) [56a] (186 ページ)** FCO 書簡及び OPM 報告書とも、この原則は父親が家系または帰化によってスーダン人となったかどうか、また子供の出生国がどこなのかに関係なく適用されると明記している。**[4f] (p1) [56a] (186 ページ)**

28.03 FCO 書簡は、家系によってスーダン人と認定される条件の詳細なリストを挙げている。**[4f] (1 ページ)** また、US OPM 報告書も同じく、スーダン生まれの人物の継承資格について次のように明記している。

1957 年 1 月 1 日当日または以前に生まれた者。

スーダン領に生まれ、両親がスーダンの住民である子供（はスーダンの市民権を取得する資格がある。）

1957 年 1 月 1 日以後に生まれた者。

スーダン領で生まれたことが必ずしも市民権獲得の絶対条件ではない。その例外は、両親が不明の子供である。**[56a] (186 ページ)**

28.04 FCO 書簡には続けて次のように記載されている。

「内務省は、法によって次のように定義される外国人に対して、スーダン人として認める帰化許可証を発行する。以下のような条件を満たす非スーダン人であること：年齢及び責任能力が十分なレベルに達していて、過去 5 年以上スーダンに居住し、品行方正で、精神的な墮落を含め犯罪歴がないこと。」 **[4f] (1 ページ)**

28.05 FCO 書簡及び OPM 報告書とも、スーダン人男性と結婚する非スーダン人女性の地位について同じように記載している。 **[4f] (p1-2) [56a] (186 ページ)** 「移民に関しては、外国人と同じ規定が適用されるが、難民に関しては、法の規定とスーダンにおける難民の存在を規制する国際協定との矛盾によって帰化申請が認められていない。」 (2001 年 10 月 24 日付 FCO 書簡) **[4f] (2 ページ)** FCO 書簡にはまた、移民の帰化が撤回される条件の詳細なリストが挙げられている。 **[4f] (2 ページ)**

28.06 OPM 報告書には、スーダン市民権の自主的な破棄は法によって認められていると記述されている。 **[56a] (186 ページ)** また、以下の条件のうち 1 つまたは複数に該当する場合、スーダン市民権が強制的に剥奪されると記載されている。

新しい市民権を取得した者。

詐欺行為または偽装によって帰化した市民である者。

登録無く海外に 5 年以上居住している帰化市民。 **[56a] (186 ページ)**

28.07 2005 年 2 月 28 日付の FCO の書簡には、2001 年以来国籍または市民権に関する法律は変更されていないと明記されている。 **[4b] (1 ページ)**

市民権及び国籍：南スーダン

28.08 南スーダン暫定憲法 (ICSS) は 2005 年 12 月 5 日に調印された。(2005 年 12 月 21 日付スーダンに関する国連事務総長報告書) **[6c] (4 段落)** 本報告作成の現時点においては同憲法の完成版の写しはまだ手に入らないが、2005 年 10 月付の憲法草案が *Sudan Tribune* 紙のウェブサイトに掲載された。**[12d]** 同草案の第 48 条には次のように規定されている。

- (1) スーダン人の母親または父親の下に生まれた者は何人も、スーダン国籍及びスーダン市民権を保持するための侵すことのできない権利を有することとする。
- (2) 市民権は、これを南スーダンの全てのスーダン国民の平等な権利及び義務の基礎となるものとする。
- (3) 南スーダンの全ての市民は、本憲法及びスーダン国家暫定憲法（INC）によって保障された全ての権利を有することとする。
- (4) Abyei 地域の Ngok Dinka 族は南スーダンの市民であるものとする。

[12d] (21 ページ)

28.09 Gurtong Peace Project のウェブサイト掲載の日付不詳の記事によると、新しいスーダンの 29 の法律が 2003 年 6 月 26 日に当時 SPLM/A 会長であった故 John Garang 氏によって調印され、2004 年 4 月 17 日に 4 つの法律草案が調印されたという。**[18a]** 記事はさらに次のように伝えている。「和平協定に調印後に、これらの法律は変わる予定だ。新しい状況及び将来の協力と平和の環境に合わせて、新たな法律が生まれるだろう。」**[18a]** 2006 年 3 月 8 日に APCI に提出したコメントの中で、UNHCR は次のように述べている。「2003 年新スーダン国籍法（New Sudan Nationality Act of 2003）が既に法制化され、現在施行されている。**[6d] (2 ページ)** 同法は、現在 Ministry of legal Affairs and Constitutional Development の弁護団によって履行されている CPA の規定に沿うように軽微な修正が必要である。**[6d] (3 ページ)** 同法には次のように規定されている。

- (1) 本法律の施行前に生まれた者は、以下の条件を満たす場合、家系による新しいスーダンの国民と認められることとする。
 - a) (i) 本人またはその両親、祖父母、曾祖父母が新スーダンで生まれた者。
 - (ii) 新スーダンの部族の 1 つに属している者。
 - (iii) 本法律施行時点で新スーダンの住民で、1994 年 4 月以来スーダン住民であり、男性の直系祖先がこの日付よりも前にスーダン住民であったか、あるいは先祖全員がずっとスーダン住民である者。
 - b) 継続してスーダンに居住し、新スーダン国籍の地位を獲得及び維持している者。
- (2) 本法律施行後生まれた者は、その誕生時点で父親が帰化による新スーダン国民であった場合、家系によって新スーダン国民と認められるものとする。

- (3) 今現在、または最初に身元不明の両親によって育児放棄された孤児として発見された者は、そうでないと証明されない限り、家系によって新スーダン国民と見なされるものとする。**[18b]（国籍法：第 2 章第 5 節）**

28.10 同法は帰化に関して次のように規定している。

内務省は、新スーダン国民としての帰化申請許可証を、所定の用紙によって申請し、以下のような条件を満たす外国人に対して発行するものとする。

- a) 十分な責任能力のある者。
- b) 申請日直後から 10 年間新スーダンに居住している者。
- c) 新スーダンの国家言語に関する十分な知識を有している者。あるいは、かかる十分な知識を有していない場合、20 年間以上続けて新スーダンに居住している者。
- d) 品行方正な者。
- e) 帰化が許可された場合、永久に新スーダンに居住するつもりである者。
- f) いかなる外国の法律の下でその国の国民であった場合でも、その法の規定に従って、その国籍を正当かつ有効に放棄及び離脱した者。

[18b]（国籍法：第 3 章第 9 節）

内務省は、新スーダン国民としての帰化申請許可証を、所定の用紙によって申請し、以下のような条件を満たす外国人の女性に対して発行するものとする。

- a) 男性のスーダン国民の妻である者。
- b) 少なくとも 5 年間継続して新スーダンに夫と居住している者。
- c) いかなる外国の法律の下でその国の国民であった場合でも、その法の規定に従って、その国籍を正当かつ有効に放棄及び離脱した者。

（2003 年新スーダン国籍法）**[18b]（国籍法：第 3 章第 11 節）**

28.11 同法は、新スーダン市民が国籍を失う可能性のある条件及び同法の下で起訴される犯罪をも規定したものである。**[18b]（国籍法：第 4 章及び第 5 章）**

雇用権

29.01 英 BBC Timeline は 2005 年 7 月 9 日付のスーダン国家暫定憲法（INC）調印について報じた。**[9a]** 本報告作成の現時点においては同憲法の完成版の写しはまだ手に入らないが、2005 年 3 月 16 日付の憲法草案が *Sudan Tribune* 紙のウェブサイトに掲載された。**[12d]** 同草案の第 40 条には次のように規定されている。

- (1) 平和集会の自由は、これを保障する。何人も、他者との結社の自由を有し、これには政党、結社及び個人の利益を保護するための職業または専門職業組合の結成及び加入を含むものとする。
- (2) 政党、結社及び職業または専門職業組合の樹立の自由はこれを保障し、民主主義社会において必要なかかる権利の行使は、法律でこれを保障するものとする。**[12d]**

29.02 2006 年版 USSD 報告書には、法によって経済的目的及び労働組合の目的のための結社の権利は保障されているが、実際上は政府によってこの権利が否定されていると記載されている。**[3a]（第 6 節 a）** さらに、法の規定では、労働組合が集団行動を組織または実施するための自治権は認められていない。また、法は、労働組合の目的、任期、活動範囲、組織構成及び同盟関係について定義している。労働組合の資金は公金と考えられているので、政府の監査役員がその資金活動を監視している。**[3a]（第 6 節 b）**

29.03 同報告書にはさらに次のように記載されている。

「非アラブ系イスラム教徒及びダルフルや Nuba Mountains 等に住む与党とのつながりを持たない部族及び派閥出身のイスラム教徒は、自分たちは第二市民階級として扱われており、政府関連の仕事や北部及び政府支配下の南部での公共事業において差別されていると主張している。」**[3a]（第 2 節 c）**

労働組合

29.04 2006 年版 USSD 報告書には次のように記載されている。

「労働組合法（Trade Union Act）によって、スーダン政府の管轄下にある Sudan Workers Trade Union Federation（SWTUF）だけが法的に認

められており、その他の労働組合は全て禁止されているという意味で、労働組合の独占状態が出来上がっている。International Labor Organization (ILO) はしばしば、このような労働組合の独占状態は結社の自由に反すると主張している。International Confederation of Free Trade Unions (ICFTU) は、禁止条項が定められる前からあった国家の中心的な労働組合であり、国外でも機能していた“正統的な”SWTUFを一貫して承認してきた。**[3a] (第6節 a)** さらに、法は、雇用者による労働組合に対する差別を禁止してはいない。**[3a] (第6節 a)**

29.05 2006 年版 USSD 報告書にはまた次のように記載されている。

「労働組合組織委員会には組合を組織し、集団交渉を行う権利があるが、実際上は政府が運営委員会に対する管理を通じて、賃金及び雇用条件の決定過程を握っている。政府、政府管轄の SWTUF 及び労働者の代表によって構成される三者委員会が、賃金を決定する。組合の会議、要求の提示及びその他の労働組合の活動を認める労働法制が構築されていないことによって、公式の権利の価値が大きく制限されている。現地の組合職員の中には、政府に対して要求を提示した者もいるが、そのような行動を取る者はほとんどいないのが実態である。政府が日常的に専門職業組合、労働組合及び学生組合の選挙に介入し、裏で操作しているという信頼できる報告が複数寄せられている。」**[3a] (第6節 a)**

29.06 2006 年版 USSD 報告書にはさらに次のように記載されている。

「専門の労働法廷が労使紛争を扱っているが、実際には労働省が紛争を強制的に処理する権限を持っている。ストライキは政府が認めない限り違法なものと考えられているが、実際これまでに1度も行われたことがない。大部分の場合、ストライキを起こそうとした社員は雇用を剥奪されている。しかし、2005 年中に労働者たちはストライキを起こしたが、解雇されてはいない。Port Sudan に一箇所輸出処理区域が設けられており、ここは通常の労働法の例外地域となっている。」**[3a] (第6節 a)**

29.07 ICFTU の 2006 年発行労働組合権の侵害に関する年次調査報告書 (Annual Survey of Violations of Trade Union Rights) には次のように記述されている。「アフリカで起こった労働組合権侵害の最も大きな特徴のひとつは、労働組合の組織、集団交渉、ストライキの制限及び抑圧的対応を通じて、政府が労働者の権利を尊重しなかったことである。また、公共部門及び民間部門の両方において、ストライキの権利に厳しい制限

が設けられていることも挙げられる。このような制限によって、法的に認められたストライキを行うことが実質的には不可能になることが多く、この権利が著しく抑圧されることが頻繁に起こっている。過去に起こった 3 件では死者が発生している。」 [51a]

29.08 同調査報告書にはさらに次のように記述されている。「スーダンでは政府の管理下にある唯一の労働組合だけが機能し、その他の民間の労働組合は全て禁止されている状況の中で、全く改善は見られていない。」[51a] 2005 年 5 月発行版 SHRO-Cairo 報告書には、政府当局は 2004 年 12 月 30 日、労働組合指導者である al-Zain Qinawi 氏を逮捕したが、同氏は逮捕時いくつかの病気を患っていたと記述している。[17c]

29.09 2006 年版 USSD 報告書には次のように記載されている。「大部分の場合、ストライキを起こそうとした社員は雇用を剥奪されている。しかし、2005 年中に労働者たちはストライキを起こしたが、解雇されていない。」 [3a] (第 6 節 b)

賃金及び雇用条件

29.10 2006 年版 USSD 報告書には次のように記載されている。

「労働者の月の最低賃金は 48 ドル (12,500 スーダン・ディナール) であり、これでは労働者及びその家族がまともな生活水準を維持することはできない。大部分の大都市の労働基準監督署を管轄する労働省は、最低賃金の運用に関して責任を担っており、労働者たちは一般的にこの基準に従っている。最低賃金を支給されていない労働者は、労働省管轄の地元の労働基準監督署に要求を訴えることができ、監督署はそれに従って調査を行い、適切な処置を講じる必要がある。郵便局職員及び民生委員を含めた数人に対して正規の給与が支払われていないという複数の報告が出されている。」 [3a] (第 6 節 e)

29.11 2006 年版 USSD 報告書にはまた次のように記載されている。

「南部には新政府を樹立する能力がなく、困難な状況に置かれており、教師を含む公務員に長期にわたって給与の支払いがなされないことが多い。多くの教師は、子供の親からの非正規の授業料を受けているだけである。法的に認められた外国人労働者も国内労働者と同じ労働権を持っている。南部の IDPs は一般的に、最も賃金の低い職業に就いており、

地方でも都市部でも産業及び様々な活動の面で経済的に搾取されている。」[3a]（第6節e）

29.12 2006 年版 USSD 報告書にはさらに次のように記載されている。

「一般的に遵守されている法では、1 日 8 時間、週合計 48 時間の労働、金曜日に休日と規定されている。時間外労働は週に 12 時間、1 日に 4 時間を超えてはいけなと定められている。過剰な時間外労働の強制に対する禁止規定はない。法によって労働者の健康及び安全が保障されているが、労働条件は全般的に劣悪であり、労働省による法の執行は最低限度のレベルでしか行われていない。労働者が雇用を解除されることなく危険な雇用環境を拒否する権利は認められていない。」[3a]（第6節e）

奴隷及び強制労働

29.13 国家暫定憲法（INC）の第 30 条には次のように規定されている。「あらゆる形式の奴隷及び奴隷労働は、これを禁止するものとする。何人も奴隷または強制労働を課されることはあってはならないこととする。法によって定められている通り、犯罪に対する法廷の下した刑罰を除いて、何人も強制労働を行う必要はないこととする。」[12d]（13 ページ）

29.14 2006 年版 USSD 報告書には次のように記載されている。

「法は、子供に対するものを含め強制労働を禁止している。しかし、そのようなことが実際に行われているという複数の報告が出されている。政府は奴隷及び強制労働の存在を否定し続けているが、CEAWAC は拉致が行われていることを認めている。ILO Committee of Experts は、女性及び子供に対する拉致、強制労働及び性的奴隷が 2005 年中に続けて行われたと報告している。同委員会はまだ、政府及び反政府勢力は男性及び少年を強制的に徴兵して、戦場に送り込んでいると伝えている。」[3a]（第6節c）

29.15 US State Dept Trafficking in Persons Report in June 2006 には次のように記載されている。

「スーダン国民統一政府は、人身売買の撤廃に関する最低基準を完全に遵守してはおらず、それに向けた実質的な努力も行っていない。スーダ

ンは多くの現場で最初は進歩を見せたが、その努力の大部分は継続されていない。さらに、人身保護の努力は全ての被害形態に及んではおらず、奴隷被害に遭った人たちを救い出そうという CEAWAC の活動は、資金不足により 2005 年中に一時休止されたことがある。」[3e] (14 ページ)

西スーダン（ダルフル）

29.16 2006 年版 USSD 報告書には次のように記載されている。「非アラブ系イスラム教徒及びダルフルや Nuba Mountains 等に住む与党とのつながりを持たない部族及び派閥出身のイスラム教徒は、自分たちは第二市民階級として扱われており、政府関連の仕事や北部及び政府支配下の南部での公共事業において差別されていると主張している。」[3a] (第 2 節 c) また、前述の 2006 年 6 月付 USSD 人身売買に関する報告書は、ダルフル紛争に関して次のように記載している。「女性たちは強姦された末に、ときには身体を切断され、性的目的のために拉致されることもある。子供たちも拉致されており、大部分が略奪してきた家畜の世話をさせられている。」[3e] (p16)

南スーダン

29.17 IRIN は、2005 年 12 月 5 日の南スーダン暫定憲法 (ICSS) 調印について伝えた。[10g] 本報告作成の現時点においては同憲法の完成版の写しはまだ手に入らないが、2005 年 10 月付の憲法草案が *Sudan Tribune* 紙のウェブサイトに掲載された。[12d] 同草案の第 29 条には次のように規定されている。

- (1) 平和集会の権利は、これを認め保障するものとする。何人も、他者との結社の自由を有し、これには政党、結社及び個人の利益を保護するための職業または専門職業組合の結成及び加入を含むものとする。
- (2) 政党、結社及び労働組合の結成及び登録は、民主主義社会において必要とされている通り、法によってこれを規定することとする。

[12d] (13 ページ)

29.18 2006 年 6 月付 USSD 人身売買に関する報告書には次のように記載されている。「拉致被害者たちは新しい部族の一員となり、その部族のメンバーと結婚することが多い。しかし、中には強制労働や性的虐待を受ける者もいる。」[3e] (16 ページ) また、和平プロセスの進展及び南部での

紛争の終結によって、同地域の拉致が急速に減っている。この年、南部で新たに拉致が発生したという報告は出されていない。**[3e] (16 ページ)**しかし、2006 年版 USSD 報告書は、SPLM/A の司令官及びそれと連携した部隊は南部の男性を強制労働や雑用係に利用し続けていると記載している。**[3a] (第 6 節 c)**

29.19 ILO は 2007 年 1 月 16 日、そのウェブサイト上で次のような最新情報を伝えている。

「和平の見通しが見えてきている状況下で、スーダン政府及び SPLM は現地の復興及び再建に向けて勢いを増しており、その計画ではインフラ及び地域の基本的な機能を向上させることが大きな課題とされている。何年間にも及ぶ内戦の間、現地の人々は緊急インフラ整備を行っており、それは特に“復興活動のための食糧支援”アプローチを通じた WFP の支援によって支えられてきた。和平が実現する可能性が見えてきたことで、インフラ整備及び IDPs を含めた現地の労働力による和平推進への開発アプローチの実行可能性が増してきている。重要な優先課題は、政府機関の機能改善である。USAID 及び Sudan Southern Sector Secretariat for Physical Infrastructure からの要請により、ASIST は郡を中心とした道路管理のための労働訓練プログラムを実施している。」

[73a]

29.20 ILO の報道はさらに次のように伝えている。「ILO は 1997 年、United Nations Capital Development Fund (UNCDF) 及び UNDP に対して支援を実施し、南ダルフール州の人的労働中心の道路建設プロジェクトに資金を提供した。3 年以上にわたって 550 万米ドルを拠出するこのプロジェクトは、全長 86 キロの道路を建設し、民間の人的労働中心の独立した道路建設能力を開発することを目指しており、State Ministry of Engineering Affairs (SMEA) の技術スタッフとの連携で進められている。」 **[73a]**

近隣諸国

- 30.01 USCRI の 2005 年版世界難民調査報告書ギニア-スーダン編 (World Refugee Survey 2005: Guinea-Sudan) には、スーダンの大量の IDPs 発生及び難民移動の様々な要因について述べており、2004 年中の人道及び治安状況について報告している。**[50a]** The World Refugee Survey's Country Reports 及び UNHCR*は、それぞれ 2004 年末及び 2006 年初頭における隣国で生活する大量のスーダン難民に関して、次のような数字を報告している。

国名	スーダン難民の人数
チャド	225,000
中央アフリカ共和国	36,000*
コンゴ民主共和国キンシャサ	45,200/69,400*
エジプト	23,000/30,324*
エチオピア	73,400*/90,500
ケニア	67,600/74,000*
ウガンダ	204,400*/214,800

***[6v]** (注-ケニア/スーダン：帰還者のために調印された歴史的三者合意)
[50a-50c]

- 30.02 IRIN は 2005 年 2 月、UNHCR の推定では 200,000 人以上の未登録難民を含めて 600,000 人のスーダン人が近隣諸国から帰還したことを伝えている。IRIN は同月、本国送還を望まない何千人もの難民たちがウガンダのキャンプにいるという UNHCR の声明も報じている。**[10bs, 10dp]** さらに、難民たちは、施設の不足、反政府勢力及び SPLA による政治的排除及び治安状況を懸念していることも伝えている。**[10dp]**

中央アフリカ共和国

スーダン難民

- 30.03 IRIN は 2006 年 2 月 2 日、中央アフリカ共和国がおよそ 16,000 人のスーダンを受け入れていると伝えた。**[10cz]** また、IRIN は 2 月 7 日、次のように報じている。「2 国政府と UNHCR との最近の合意に続いて、中央アフリカ共和国で 16 年間暮してきたスーダン難民の最初の帰還グ

ループが今週故郷に帰ってきた。彼らが帰還後現地での生活に再び溶け込むことができるようにするために、NGOs が、メジナチュウ、ハンセン病及び回旋糸状虫症[訳者注：皮膚や目の病的状態]等の現地特有の病気を治療するための保健プログラムを実施しており、これらの病気は帰還者たちの共通の心配事である。」 [10da]

チャド

30.04 2005 年末から 2006 年初めにかけて、HRW、英 BBC、IRIN、ICRC 及び ICG は一斉に、スーダンとその東部の隣国チャド国境付近の治安悪化及び両国の反政府勢力への支持拡大による緊張激化について報じている。 [19k-19m] [9ab, 9aj, 9am] [10ac, 10db-10dd] [22d]

30.05 ICRC は次のように伝えた。「2005 年 12 月 18 日、Al-Geneina の南西部チャド国境地帯の町 Adré でチャド反政府勢力とチャド政府軍との戦闘が勃発した。この衝突は、スーダンとチャドの国境地帯に不安定化を招き、現地の人々を苦しめる大きな出来事のひとつとなった。」 [22d] 同様に、2006 年 1 月発行 ICG 危機監視報告書 (ICG January 2006 Crisis Watch Report) にも次のように記載されている。「12 月 18 日及び 19 日、スーダン国境付近の町 Adre で反政府勢力の Rally for Democracy and Liberty がチャド政府軍を攻撃し、両国間の治安情勢及び関係が悪化した。この攻撃により、推定 100 人以上が死亡したと見られている。両国は、お互いの反政府勢力を支援していることを巡って批判の応酬を繰り返している。チャドは首都 Khartoum の攻撃を非難し、スーダンに対する “ 交戦状態 ” を宣言した。Deby 大統領に対する批判の声が軍及び政府内で高まっており、内部の側近たちは Zaghawa 支配下の新しい反政府勢力である SCUD に鞍替えしている。」 [14h] (2 ページ)

30.06 ICG は 2006 年 3 月、次のように伝えている。

「チャドとスーダンの関係は、お互いの反政府勢力への支援を停止し、国境警備を強化することを決めた 2005 年 2 月 8 日の合意により改善した。この 2 国間合意後も依然として越境衝突が続いており、チャド政府軍からダルフルに拠点を置くチャドの反政府勢力に幹部らが続々と鞍替えしていることで、2 国間の衝突が激化する恐れも出てきている。多くの難民がこの衝突から逃れてダルフルにやって来ている。明らかにスーダン政府からの支援を受けているダルフル出身のスーダン及

びチャドの民兵組織が、攻撃の対象となっていると伝えられている。」
[14i] (2 ページ)

30.07 HRW は 2007 年 2 月 21 日、次のように報じている。

「チャド東部の市民に対する攻撃が続く中、国連安全保障理事会は、早期に国際的な派遣団の現地配備を承認すべきである。国連の Department of Peacekeeping Operations (DPKO) は来週、チャドへの国連軍派遣に向けたいくつかの計画について安保理で報告することになっており、その後に安保理が派遣部隊配備について討議することになる。国連軍を派遣すればチャドの市民を攻撃から守ることができるが、それには決定的な行動を取るための手段が与えられていなければならないという条件がある。安保理理事会はチャド派遣部隊に対して、実質的な物資、政治的支援及び市民を保護するための武力行使の権限を提供する必要がある。」 [19q]

30.08 UNHCR は 2007 年 3 月 19 日、治安上の理由からチャド難民約 550 人がスーダンの西ダルフールの国境付近から出て行くように要求されており、最初のグループ 220 人以上が週末に Um Shalaya 難民キャンプに移送されたと伝えている。 [6ap]

30.09 同報道はまた次のように伝えている。「IOM が用意した 14 台のトラックに 221 人の難民及び驢馬数頭を乗せた一団が、土曜日にチャドとスーダンの国境の村 Arara を出発し、翌日には UNHCR が管理するダルフールから約 75 キロの範囲にある Um Shalaya 難民キャンプに到着した。」 [6ap]

30.10 同報道は続けて次のように伝えている。「西ダルフールの推定 20,000 人のチャド難民のうちこれまでのところ約 16,000 人は、農地に近づきやすく、治安情勢が改善されたときに早急に元の土地に戻ることができるように国境近くの場所を選んで生活している。しかし、国境地帯の治安状況はここ数ヶ月の間に悪化しており、Um Shalaya キャンプに到着した新しいメンバーを含めた約 550 人のチャド難民は、1 ヶ月前に西ダルフール内のもっと安全な場所に移動したいという希望を表明している。」 [6ap]

30.11 同報道はさらに次のように伝えている。「これからの数週間にチャド国境を越えてさらに新たな難民たちが押し寄せてくることが予想される中で、Um Shalaya キャンプは拡大していくだろう。難民の増加を予想

している UNHCR は、キャンプ内に新しい井戸を掘り、近くの村に学校を建て難民と現地の地域社会の人たち両方を対象とした教育を提供していることを明らかにした。2005 年後半からスーダン国境を越えてチャド東南部にまで広がっているダルフル紛争により、約 120,000 人のチャド人が IDPs となっており、20,000 人がスーダンに避難所を求めている。UNHCR は、Um Shalaya キャンプ及び西ダルフルの Mukjar キャンプで生活するチャド難民を支援しており、国境地帯にいるチャド難民の監視及び保護も行っている。2003 年 2 月以来ダルフル地方で燃え上がっている紛争によって、約 200,000 人が死亡し、少なくとも 200 万人が土地を追われている。さらに 230,000 人のスーダン難民がチャド東部にある 12 の UNHCR 管理下のキャンプで暮している。[6ap]

- 30.12 USAID は 2007 年 3 月の最新報告の中で、同組織が紛争に苦しむ人たちに向けた支援ネットワークを提供するための地域が運営する団体及び活動センターを創設したことを伝えている。ダルフル地方の暴力が激化し、チャド東部にまで広がっている中で、土地を追われるチャド人及びスーダン人の数はますます増加しており、彼らは西ダルフル内の比較的安全なキャンプに逃れている。慣れない環境で生活している難民及び IDPs は、現地の伝統的な生活物資を持っておらず、劣悪な衛生環境の中での疫病の恐怖が、狭いキャンプで寄り添って暮らす人たちを不安に陥れている。USAID からの支援を受けた Tearfund は、このような危険を減らすために地域が運営する団体及び活動センターを設置して保健環境を改善し、紛争に苦しむ人たちに向けた支援ネットワークを提供している。[3m]

スーダン難民

- 30.13 2006 年版 USSD 報告書には次のように記載されている。「チャドには、ダルフル紛争を逃れてきた推定 210,000 人の難民がいる。2006 年の終わりまでに、ダルフルには 200 万人以上の IDPs がおり、さらに 234,000 人の市民がチャドに逃れ、UNHCR による大規模な救援活動を受けている。[3a] (1 ページ)
- 30.14 UN は 2007 年 5 月 3 日、チャド東部の Bredjing キャンプ、Farchan キャンプ及び Treguine キャンプには約 65,000 人の人々が暮しており、彼らは 2003 年以来ダルフルで打ち続く紛争によって土地を追われた多くのスーダン人の一部であると伝えている。[6ah]

30.15 2007 年 5 月 14 日付アクセスの PHR は、同団体が組織するダルフル生存者支援キャンペーン（Darfur Survival Campaign）について次のように報じている。「このキャンペーンでは、保健分野の専門家、学生及び一般社会からの参加者が集まり、スーダンのダルフル地方で緊急に必要なとされる活動を行い、さらにアフリカ連合軍及び国連決議 1706 によって決められた 20,000 人の国連派遣団も加わっての活動を展開している。さらに、同キャンペーンは紛争から逃れた生存者たちへの補償及び損害賠償の支払いも求めている。また、ダルフルで続く大量虐殺では何十万人もの人々が死亡している。スーダン政府及びアラブ系民兵組織 *Janjaweed* は 200 万人以上を土地から追放し、彼らの生存に必要な手段及び帰還に必要なインフラを全て破壊しつくしてしまった。戦闘は今なお続いており、難民キャンプでは安全及び人々の保護が緊急に求められている。[34c]

30.16 IRIN は 5 月 10 日、UNHCR の次のような声明を伝えている。「ウガンダからの南スーダン難民の自主的帰還は、2007 年 8 月に Eastern Equatoria 州への帰還経路として開かれた 3 つ目の回廊の利用によって活発化することが予想される。ウガンダ、南スーダン及び UNHCR の職員たちは Kampala で会談し、兵站面での困難はあるものの、帰還のペースを上げることで合意した。UNHCR はさらに多くの難民のスーダン南部への自主的帰還を望んでいる。ウガンダの難民の 70 パーセントは Eastern Equatoria から来た人たちであり、さらに多くの人たちの帰還が期待されている。[10ev]

コンゴ民主共和国

スーダン難民

30.17 IRIN は 2006 年 2 月、現在約 13,300 人のスーダン難民がコンゴ民主共和国に登録されていると報じた。[10de]

30.18 UNHCR は 2006 年 3 月、次のように報じている。

「コンゴからの組織的帰還に備えて UNHCR は、難民の代表者たちが 3 月 5 日から 6 日にかけてコンゴの Biringi、Ayamba、Ariwara 及び Ingbokolo から Yei 郡及び Morobo 郡を 2 日間にわたって訪問する計画を実施した。難民代表は郡当局者と会談し、帰還地域のサービス強化を保障するという確約を得た。また、UNHCR の職員は難民代表を Yei 郡

及び Morobo 郡の様々なプロジェクト関連の場所へ案内した。一方、コンゴの現地当局はこれから始まる自主的帰還に向けて、別の難民キャンプへの意識向上キャンペーンを開始している。都市部の難民が多く生活している Ariwara を通って Biringi から Ingbokolo へ移動しているとき、当局職員は難民たちに対してスーダンに帰って国の発展に参画するように促した。Aru の地元ラジオ放送では、自主的帰還の登録手続きに関する情報を流した。[6v] (情勢報告-No. 50)

- 30.19 この報告に続いて、UNHCR は 2006 年 8 月、383 人の難民 (127 家族) がコンゴの Ingobokolo から Yei へ帰還したことを伝え、また 8 月 25 日には、さらに 152 人の難民 (61 家族) が Ingobokolo から Yei に戻ったことを報じている。それからさらに 3 日間かけて、彼らは Yei の中継地点 Alero から Morobo、Lujulo、Lasu、Juba 及び Yambio へと散らばっていった。[6v] (情勢報告-No. 62)

- 30.20 IRIN は 2006 年 9 月 14 日、UNHCR の Jens Hesemann 広報部門職員が 9 月 13 日にコンゴの首都キンシャサで語った内容として次のように伝えている。

「コンゴには何百人ものスーダン難民が生活しており、その中には 20 年間もコンゴにいる人もいるが、最近の UNHCR による本国帰還支援によって故郷に戻った。少なくとも 400 人のスーダン難民がコンゴ北東部の Aba 地域からスーダン南部へを帰還した。[10cv]

エジプト

- 30.21 ICG's January 2006 Report 'Sudan: Saving Peace in the East'には次のように記載されている。「エジプトではスーダン政府と NDA の会談が過去に数回行われており、2005 年 6 月 18 日には Cairo Agreement が交わされている。エジプトにとっての利害は、伝統的な党派 (Umma 及び DUP) に対する影響力を保持し、近隣のイスラム急進派の力を弱めることにある。[14b] (24 ページ) また、同国はスーダン政治勢力間の争いを封じ込めることにも大きな関心を寄せている。というのも、各勢力が同国の国益におおむね資する現状を壊す動きに出ることを警戒しているからである。この動きは、スーダン北部の周辺地域が低いレベルで不安定な状態を保っていくことと並行している。[14b] (24 ページ)

スーダン難民

- 30.22 AI は、2006 年 1 月に起きたエジプト当局による 650 人のスーダン人拘束について、次のように伝えている。

「拘束された 650 人は、2005 年 9 月 29 日から首都 Cairo で平和抗議を展開している 2,500 人以上のスーダン人の一部である。彼らのデモは、雇用及び教育機会の改善、スーダンへの強制帰還からの保護及び第三国への定住を要求するものであった。警察は 12 月 30 日に抗議デモを武力で鎮圧し、少なくとも 27 人のデモ参加者が死亡、何十人もの抗議参加者及び警察官が負傷した。 [16aj]

- 30.23 AI はさらに 2006 年 2 月 2 日、この事件について次のような追加報告を発表している。

「当局は UNHCR の要求に応じて、1 月 7 日から 20 日までの間に拘束者の中から 440 人を解放した。UNHCR は、今なお拘束されている 183 人のうち 14 人は庇護を申請しているとして、その人たちを直ちに解放するように求めている。それ以外の人たちについては、国際的な保護が必要でないということが確認されている。彼らは依然として拘束状態のままだが、エジプト当局は彼らを国外追放するつもりはなく、ビザを発給すると発表した。」 [16ak]

- 30.24 2006 年 3 月 2 日付 UNHCR 情勢報告書（UNHCR Situation Report of 2 March 2006 ）には次のように記載されている。

「スーダン大使館と UNHCR との間で、難民及び庇護を求める全ての人々に、同大使館にそのための申請カードを提出すれば無料で緊急移送書類を発行するという合意が交わされた。この書類は 1 ヶ月間有効で、将来の必要に応じて 3 ヶ月まで延長可能である。この書類は“ 自主的帰還 ” を目的として発行されるものであり、スーダンへの帰還者が同国で尋問または妨害に遭うことがないことを保障するものである。 [6v]（情勢報告-No. 49）

- 30.25 翌週の UNHCR 情勢報告書にはさらに次のように記載されている。

「エジプトにいるスーダン難民及び庇護希望者の自主的帰還を前にして、UNHCR Cairo は 2006 年 3 月 6 日、スーダン航空側と会合し、同国行きの航空便、手続き、手荷物許可及びチャーター便使用の可能性につい

て話し合った。UNHCR はまた、3 月 12 日に IOM とも会合を開き、協力してもらえる可能性のある分野について話し合った。(首都 Khartoum 経由での) Juba 行きの航空便による最初の帰還予定は 3 月 29 日となっている。一方で、エジプト、スーダン及び UNHCR の 3 者間合意調印に向けた交渉が続けられている。[6v] (情勢報告-No. 50)

エリトリア及びエチオピア

30.26 IRIN は 2005 年 12 月、次のように伝えている。

「国連の Jean-Marie Guehenno 平和維持担当事務次官はエチオピアの首都 Addis Ababa で次のように述べた。『エチオピア及びエリトリアは、両国の間で新たに戦争が勃発する危険性が続いていることを考慮し、具体的な行動を取らなければならない。情勢判断の誤算によってさらなる流血の事態に発展する可能性がある』。」 [10df]

30.27 同報道はさらに次のように伝えている。「Guehenno 次官による首都訪問は、エリトリアが約 200 名の西側の平和維持部隊兵士の撤退を命令したことを受けてのものであり、国連はこの撤退の動きによって任務を完全に果たすことができなくなってしまう。エリトリア政府は 2006 年 10 月 5 日、エチオピアとの緩衝地帯の領空を国連の平和維持軍がヘリコプターで通過することを禁止すると発表した。さらに、国連の車両が夜間の巡回の際に緩衝地帯のエリトリア側を通ることも禁止し、国連の同国での 40 の任務のうち 18 から撤退するように要求した。」 [10df]

30.28 2006 年 1 月発行のスーダン東部の問題に関する ICG 報告書は、エリトリアとエチオピアとの新たな敵対関係について次のように伝えている。「エリトリアの Asmara は少なくともスーダンの中立が保障されることを求めており、その条件次第で EF への支援をやめることも考えている。大きな両国の間で再び戦闘が勃発すれば、現在ある面ではダルフルよりも人道状況が悪化しているスーダン東部で夥しい難民が発生する危険性がある。」 [14b] (エグゼクティブサマリー1 ページ)

30.29 同報告書にはさらに次のように記述されている。「首都 Khartoum 及び Asmara への 2005 年 10 月および 12 月の交換公式訪問の結果、2005 年 12 月 7 日に両国間で合意書が調印され、2 国間関係の正常化及び空と陸の交通が再開された。[14bj] (14 ページ)

- 30.30 2006 年 1 月発行のスーダン東部の問題に関する ICG 報告書は、エリトリアとエチオピアとの新たな敵対関係について次のように伝えている。「エリトリアの Asmara は少なくともスーダンの中立が保障されることを求めており、その条件次第で EF への支援をやめることも考えている。大きな両国の間で再び戦闘が勃発すれば、現在ある面ではダルフルよりも人道状況が悪化しているスーダン東部で夥しい難民が発生する危険性がある。」[14b] (エグゼクティブサマリー1 ページ)
- 30.31 同報告書にはさらに次のように記述されている。「首都 Khartoum 及び Asmara への 2005 年 10 月および 12 月の交換公式訪問の結果、2005 年 12 月 7 日に両国間で合意書が調印され、2 国間関係の正常化及び空と陸の交通が再開された。」[14bj] (14 ページ)

スーダン難民

- 30.32 UNHCR は 2006 年 3 月 2 日、次のように伝えている。「2006 年 2 月 27 日、エチオピア、スーダン及び UNHCR の間で三者間合意が調印され、約 73,000 人のスーダン難民がエチオピアの難民キャンプから南スーダンに帰還することができることになった。その最初の本国送還が、3 月中に行われる予定である。これまでに 14,000 人のスーダン難民が UNHCR に対して 2006 年故郷への帰還支援を求めてきている。第一陣は Bonga 難民キャンプから Blue Nile State まで帰ることになっている。」[6v] (情勢報告-No. 49)
- 30.33 2006 年 3 月 9 日付 UNHCR の情勢報告書には次のように記載されている。「UNHCR は 2006 年 2 月 21 日、エチオピアの Asosa で国境をまたいだ会合を開き、エチオピアの難民キャンプから Blue Nile State までの帰還計画に関する具体的な形式について話し合った。その結果、およそ 4,500 人の難民が雨季が始まる前に、エチオピアから Chali El Fiel 村及び Penawayu 村まで帰還することで合意した。Chali の他の村出身の人たちは雨季が過ぎた後に故郷に帰ることになっている。その第一陣は 3 月の終わりまでには帰途に着く予定であり、最初は輸送用車両を週に 1 台から始めて、4 月には 3 台に増やし、最終的には 5 月に入ってから 4 台から 5 台まで増やす予定である。1 台の車両には 500 人の難民が乗り込むことになる。」[6v] (情勢報告-No. 50) 2006 年 4 月には、第一陣の難民 300 名がエチオピアからスーダン南部に到着したと報道された。[10dg]

30.34 IRIN は 2007 年 4 月 4 日、次のように伝えている。

「イスラエルの NGO は、最初にスーダンでの暴力を逃れ、次にエジプトから逃れてきた 120 人のスーダン難民を彼らが収容されているイスラエルの刑務所から解放するためのキャンペーンを行っている。この難民たちの中には 320 人のスーダン人がおり、その大部分は 1 週間砂漠を歩き続けイスラエルの 200 キロに及ぶ国境を越えてきた若い男性である。ところが、イスラエルに入った直後、彼らは刑務所に入れられたのである。しかし、Israeli Hotline for Migrant Workers のような NGO が、その人たちのうちの 200 人を解放することに成功し、彼らは kibbutzim 及び moshavim（イスラエルの集団農場）で働いている。女性及び子供の中には、北部の都市 Haifa 近くの避難所で生活している人もいる。」

[10fa]

30.35 同報道はまた次のように伝えている。

「『私たちはどうしてこんなに長い間刑務所に入れられなければならないんだ？我々は難民なんだ。イスラエルは民主主義の国だと思っていたのに、大量虐殺を逃れてきた人間を刑務所に収容するなんて思ってもいなかった。我々は日に日に苦しい状況に追い込まれていっている』とあるスーダン人収容者は語った。同国の Sabine Haddad 内務省スポークスマンは、政府は『解決策を見出すために全力を尽くしている』を述べた。しかし、イスラエルの Government Secretariat Office は 1948 年以来スーダンを敵国と考えているため、スーダン人に対して簡単に難民としての地位を認めることはできないのだ。」 [10fa]

30.36 同報道は続けて次のように伝えている。

「イスラエルは、第二次世界大戦中にドイツから来たユダヤ人難民たちが、敵国市民であるという理由から米国で収監されたことを受けて 1951 年に自らが提案した追加条項であるジュネーブ条約議定書（Geneva Convention Protocol）の第 44 項に違反することを行っているのだ。『これはとんでもない話である。イスラエルは大量虐殺を逃れてやって来た人たちに対して、今日再び同じことをしているのだ。2005 年に Cairo の Mustafa Mahmud Park で起こった民衆のデモが流血の事態となり、エジプト警察が 27 人のデモ参加者を死亡させ、さらに多くの死傷者を生んだ後、スーダン人たちはイスラエルとエジプトの国境を越えてぞく

ぞくとやって来ている』と Israeli Hotline for Migrant Workers の Sigal Rosen スポークスマンは語った。」 [10fa]

30.37 同報道はさらに次のように伝えている。

「支援職員、刑務所職員及びボランティアの人たちは、難民たちの足のひどい切り傷やアザを見れば、この長い旅がどれほどたいへんなものなのかがよくわかると語っている。難民たちは背中に衣服をしょっただけで、他には何も持たずにイスラエル南部に到着しており、多くの人たちが脱水症状に陥っている。『家族と共に国境を渡りたければ、ベドウィン族に数百ドルも払わなければならない。国境を越えることができなかった人がたくさんいて、その死体が砂漠にころがっている』と南スーダンからやって来たある難民は匿名を条件に言った。」 [10fa]

ケニア

30.38 2005 年 1 月 9 日の CPA 調印に至るまでの 2 年間に及ぶ長い和平交渉は、ケニアの首都 Nairobi で行われた。(2006 年 1 月 6 日付 FCO 国家要覧) [4a] (政治)

スーダン難民

30.39 IRIN は 2005 年 12 月、次のように伝えている。「ケニアからスーダン南部に向けて独力での帰還を開始した難民も出始めている。土曜日には、UNHCR による公式の自主的帰還の第一陣が、スーダン南部を目指してケニア北東部の Kakuma キャンプを出発しており、約 150 人の難民が陸及び空の便で故郷に向かっている。」 [10dh]

30.40 UNHCR は 2006 年 1 月、次のように伝えている。

「UNHCR はスーダン及びケニアと共に、過去 14 年間にわたってケニアの保護を受けていたスーダン難民の本国帰還計画におけるそれぞれの役割及び義務を定めた歴史的な三者間合意に調印した。昨日 (2006 年 1 月 12 日木曜日) Nairobi で調印されたこの合意書は、これからさらにスーダンの近隣諸国との間で調印される予定の 7 つの三者間合意の最初のものであり、これによって 70,000 人の難民が今年の前半に南スーダンに帰還することになる。ケニアからの帰還者だけでも、そのうちの

約 10,000 人に相当する。」[6v] (注-ケニア/スーダン：帰還者のために調印された歴史的三者合意)

リビア

- 30.41 ICG's January 2006 Report, 'Sudan: Saving Peace in the East'には次のように記載されている。

「ダルフル紛争のような自国の安全保障上差し迫った脅威もなく、大きな経済的な利害もない状況の中で、リビアの東部における主要な関心は、国際社会がこれ以上スーダン情勢に介入するのを防ぐことである。同国が CPA の枠組みの中で、同紛争に対処できるような技術があるかどうか、さらに重要なこととしてそのような政治的意思があるかどうかは疑問である。」[14b] (23 ページ)

- 30.42 同報告書にはさらに、Tripoli で行われた NCP と FL との秘密交渉を理由に、BC のリビア当局に対する信頼を失ったことについても述べている。**[14b] (19, 24 ページ)** 両者の合意によって、スーダン政府当局が 1990 年代初めに FL から押収した 600 台ものランドクルーザーが返還されることになった。**[14b] (19 ページ)**

- 30.43 「FL は、この合意によって EF の力が弱体化することや 2006 年 1 月 Tripoli で行われた会談の内容に支障が出ることを否定し、今回の合意はあくまで財産を押収された FL に対してそれを“返還”するという単なる二国間の問題に過ぎないと主張した。さらに、権力及び富の問題についての話は行われなかったとも述べた。しかし、この説明では EF との大きな緊張関係を生み、その脆弱さを露呈したことに対する非難を払拭するには全く不十分である。」[14b] (19 ページ)

ウガンダ

- 30.44 IRIN は 2005 年 7 月、1,500 人の子供たちがウガンダの反政府勢力である LRA に拘束されており、さらに LRA とつながりのある 10,000 人の子供に関してもいまだに説明されていないことを伝えた。**[10s]**
- 30.45 2006 年版 USSD 報告書には次のように記載されている。「スーダン政府はウガンダ軍に対して、LRA を追い詰めるために南部地域に入ることを許可した。ウガンダ軍の作戦によって、LRA の動きは急速に抑えられ

ているが、同反乱勢力は今なお南部で活動を続けており、子供を拉致している。この LRA の行動により人道支援活動が制限されている。」
[3a] (第 5 節) また、2005 年 1 月 9 日に SPLM/A とスーダン政府との間で調印された和平合意を受けて、元 SPLM/A 指導者の故 John Garang 氏は、半自治体制を取る南スーダン政府はウガンダでの LRA の反乱の動きを終結させるために支援を望んでいると語っていた。[10di] 同氏はさらに、SPLM/A は領土内にいる LRA の部隊に対して戦闘を行う用意があることも明らかにしていた。[10di]

30.46 US State Dept Trafficking in Persons Report in June 2006 には次のように記載されている。

「スーダン政府は隣国のウガンダ政府との間で、国境警備及び監視についての協力関係を強め、LRA の打倒及び子供への人身売買を含むスーダン南部でのテロ活動の撲滅に向けて動いた。政府はウガンダ政府軍に対して、同国との国境沿いのスーダン領土内で LRA の討伐のための行動を取ることを許可している。スーダン政府治安部隊及び SPLA 分子も、さらにスーダンの北部へと進攻してくる LRA 軍と交戦している。」[3e] (17 ページ)

Lord's Resistance Army (LRA)

30.47 2005 年 2 月発行の ICG 政策報告書「ウガンダ北部の平和：これからの重要な数週間」(ICG Policy Briefing, 'Peace in Northern Uganda: Decisive Weeks Ahead') には次のように記述されている。「スーダン政府は強い圧力の下、(少なくとも現在の時点では) LRA との関係の大部分を断ち切っている。同国政府は過去何年間にもわたって、このウガンダの反政府勢力に対して武器、食糧及び活動場所を支援してきた。」[14j] (3 ページ) しかし、Institute for Security Studies' (ISS's) June 2004 Report は次のように伝えている。「スーダン政府は 2002 年 9 月、LRA への支援を打ち切ったと発表した。が、被害者、ウガンダ北部にいる彼らの支持者及び SPLM/A から寄せられた多くの報告によれば、スーダン政府軍は LRA との関係を決して断ち切っていないという。」[43b] (8 ページ) (南スーダンの不安定情勢：IGAD 和平プロセスへの脅威)

30.48 ICG の同政策報告書はまた、同機関はスーダン政府が依然として LRA への支援を続けているという情報を得たと記述している。[14j] (3 ページ) たとえこのことが事実でなかったとしても、ICG はスーダン政府の

軍情報部員たちが LRA への支援を再開する可能性があることを懸念しており、首都 Khartoum 政府の中には、南部の不安定情勢を作り出すためにこの反政府勢力の力を維持したいと考えている分子がいると指摘している。[14j] (5 ページ)

30.49 首都 Khartoum の政府及び SPLM/A の両者とも UPDF を支援し、LRA 討伐を図っているという複数の報道があるが、IRIN 及び英 BBC は 2005 年 9 月、LRA が南スーダンにおいて依然として勢力を維持しており、ウガンダの同反乱勢力による同地域での犯罪について報じている。その中には、Yei と Juba の間に開かれたばかりの新しい道路での車両のハイジャック、Yei から西の Lanya 地域及び Loka 地域の村への攻撃により、多くの家が焼かれ詳しい人数は不明だが大勢の人々が拉致された事件等が含まれている。[9y] [10bn-10bq]

30.50 英 BBC Online は 2006 年 8 月 26 日、Juba で開かれていた和平会談で LRA とウガンダ政府との間で停戦協定が調印されたことを伝えている。これにより、南スーダンのウガンダ北部での 20 年間に及ぶ紛争が終結されたことになる。ウガンダ政府は、停戦協定が整い次第反政府勢力への攻撃をやめると約束した。[9an]

30.51 IRIN は 2006 年 9 月、ウガンダ政府と LRA との間で先月合意された停戦の履行が開始された後、推定 800,000 人の土地を追われたウガンダ人たちが故郷の村へ帰還することになっていると伝えた。[10dj]

30.52 ReliefWeb はそのウェブサイト上に 2007 年 9 月 21 日、スーダンにおける LRA のこれまでの経緯及び概説について、「スーダンにおける LRA の軍事的行動の歴史、紛争終結に向けた現在の見通し及び和平協定の主要な課題の検証」と題して掲載した。[68j]

スーダン難民

30.53 IRIN はまた 2006 年 9 月、Kiryandongo キャンプに主に 15,024 人のスーダン難民が収容されている状況下で、4,560 人のスーダン難民がウガンダのキャンプから本国へと帰還したことを伝えている。[10dj]

30.54 UNHCR は 2006 年 10 月 20 日、身元不明の銃を持った男たちがスーダン南部で少なくとも 32 名の民間人を射殺したという報道を受け、同団体がスーダン難民を乗せた帰還車両での輸送を一時中止したことを伝

えた。**[6aa]** Salva Kiir Marayadit 大統領は、市民に対するこれ以上の攻撃を防ぐために、治安部隊に緊急出動命令を出した。**[10eg]**

- 30.55 国連は 2007 年 5 月 7 日、トラック 17 台に子供を含む 600 人以上の難民を乗せてスーダン南部まで輸送する 3 日間の帰還支援プログラムが完了したことを伝え、これによって雨季前にエチオピアのキャンプから難民を輸送する UNHCR の活動が終了したことになる。この帰還支援計画は、UNHCR と IOM の共同で行われていた。**[6at]**

付属資料 A：主要な出来事一覧

1989 6月：Omar Hassan Ahmed al-Bashir 中將が流血のクーデターにより政権を握る。15名からなる Revolutionary Command Council for National Salvation (RCC) が結成される。Al-Bashir 氏が急速に民間人による統治体制を解体していく。民間の新聞社が閉鎖され、政党は禁止され、国家非常事態宣言が発令される。前政権のメンバー30名が拘束される。**[1a] (1090 ページ)**

1989年6月以前の歴史に関する追加情報については、Europa Regional Surveys of the World: Africa South of the Sahara 2005 と付属資料 1 参照。**[1a]**

1991 8月：8月の後半に SPLA が分裂する。Nuer 族は新勢力を支持するが、Dinka 族はいまだに Garang 氏を支持し続ける。**[1a] (1091 ページ)**

1992 2月：300名で構成される暫定の National Assembly が結成され、そのメンバーは RCC、州知事、軍代表、警察代表、前 DUP 及び UP メンバー及び前 Nimeri 族側近で構成される。**[1a] (1091 ページ)**

1993 10月：RCC が解散し、al-Bashir 氏が大統領兼民間人による新政権の代表に任命される。**[1a] (1091 ページ)**

1994 2月：スーダンが9ではなく26の州へと再び分割される。各州の行政権及び立法権が拡大され、南部諸州はイスラム法の適用の例外地域とされる。**[1a] (1091 ページ)**

1995 6月：SPLA、DUP、UP 及び SCP を含む NDA が Asmara で会議を開き、al-Bashir 政権崩壊後の自決権に向けた計画を発表する。**[1a] (1092 ページ)**

1996 3月：1989年以来初めての議会及び大統領選挙がそれぞれ3月6日及び17日に開かれる。野党グループは候補者を擁立せず、al-Bashir 氏が再び5年間の任期で政権の座に復帰する。al-Turabi 氏 (NIF) が National Assembly 議長に選任される。**[1a] (1092 ページ)**

- 1997** 4月：1996年初めに政府との和平宣言に調印した南部の派閥が、和平協定の最終決定を下し同協定に調印する。**[1a] (1093 ページ)**
- 1998** 5月：新憲法を巡る国民投票が行われ、5月1日から20日まで投票が開かれる。開票結果は6月の終わりに発表予定。**[1a] (1093 ページ)**
- 1999** 1月：政治結社法（Political Association Act）が施行される。投票年齢が18歳から17歳に変更される。**[1a] (1093 ページ)**
11月26日 スーダン政府及び野党 Umma Party が和平協定に調印するが、SPLA 及び NDA の批判を受ける。**[1a] (1093 ページ)**
12月12日 al-Bashir 大統領が議会を解散し、国家の統一を維持するために3ヶ月間の国家非常事態宣言が発令される。緊急事態法が12月13日に施行され、続いて大統領令の発令が確約される。**[1a] (1093 ページ)**
- 2000** 1月：政敵であるイスラム教徒の Hassan al-Turabi 氏との間での権力闘争に終止符を打つ提案に関して合意に達した直後、al-Bashir 大統領が新政府の閣僚を任命する。**[1a] (1093 ページ)**
March: Umma Party が Asmara で NDA 指導者会議が行われている間に、メンバーが国外に出ている NDA 野党連合から離脱する。**[1a] (1094 ページ)** 政府が国家非常事態宣言を3ヶ月から12ヶ月に延長する。**[1a] (1093 ページ)**
5月：al-Turabi 氏が国民議会書記長の地位を停止される中で、Hassan al-Turabi 氏と al-Bashir 大統領の緊張関係が高まる。**[1a] (1094 ページ)**
6月：Hassan al-Turabi 氏が国民議会書記長の地位から解任され、新政党 Popular National Congress (PNC) を結成する。**[1a] (1091 ページ)**
12月：大統領及び議会選挙が13日から22日に行われる。
12月：スーダンの National Elections Authority (NEA) が al-Bashir 氏の大統領選挙での勝利宣言を行う。**[1a] (1094 ページ)**
- 2001** 1月3日 al-Bashir 大統領が国家非常事態宣言をさらに1年間延長する。**[1a] (1094 ページ)**
2月12日 al-Bashir 氏がスーダン大統領として二期目に入る。Popular National Congress Party (PNCP) の指導者 Hassan al-Turabi 氏及び同党の幹部たちが、SPLA との関係を深め政府転覆を支援しているとの疑いで逮捕される。**[1a] (1094 ページ)**
9月：国連安全保障理事会が1996年4月にスーダンに対して課された外交上の制裁を解除する。**[1a] (1097 ページ)**

- 2002** **1月**：SPLA と政府軍との間の停戦が Nuba Mountains で 6 ヶ月間有効になる。**[1a] (1094 ページ)**
7月：5 週間にわたる交渉の結果、政府と SPLM/A との間で和平協定が調印される。協定の内容には、国家と宗教の分離及びスーダン南部の自決権が含まれる。野党は慎重に同協定を承認するが、停戦に関しては合意が成立しない。**[1a] (1095 ページ)**
8月/9月：南部で SPLA と政府軍との間で戦闘が勃発する。政府はこの事態に対して、SPLM/A との和平交渉を停止する。**[1a] (1095 ページ)**
10月：政府及び SPLM/A が、交渉を再開し交渉中の停戦を謳った合意覚書に調印する。和平交渉が再開される。**[1a] (1095 ページ)**
12月：スーダン議会が国家非常事態宣言のさらに 1 年間延長を承認する。**[1a] (1094-5 ページ)**
- 2003** **2月**：ダルフル諸州で、Fur 族、Zaghewa 族及び Massaleit 族が SLM/A 及び JEM メンバーとして同地方の政治的・経済的抑圧に抗議する武装闘争を開始する。**[1a] (1096 ページ)**
10月：PNC 指導者である al-Turabi 氏が約 3 年間の拘束から解放され、彼の率いる政党に対する活動禁止が解かれる。**[9a] (4 ページ)**
- 2004** **1月**：軍がスーダン西部のダルフルで起こった反乱を鎮圧する動きに出た結果、何十万人もの難民が発生し、隣国チャドへ逃れる。**[9a] (4 ページ)**
3月：国連職員の語ったところによると、スーダン政府の支援を受ける民兵組織 *Janjaweed* がダルフルのアフリカ人に対して組織的な殺戮を展開する。**[9a] (4 ページ)** 軍の兵士及びイスラム教指導者 Hassan al-Turabi 氏を含めた野党政治家がクーデター画策を巡って逮捕される。**[9a] (4 ページ)**
4月：政府と SLM/A との間でダルフル州における 45 日間の停戦が調印されるが、守られることはなく衝突が続く。**[1a] (1096 ページ)**
10月 20日アフリカ連合がダルフルへの平和維持軍の増員及び民間警察部隊の派遣に合意する。3,320 人の武装部隊の配備が数週間のうちに実施される予定となる。**[10dk]**
11月 9日スーダン政府がダルフル上空での軍事活動の停止に合意し、ナイジェリアの首都 Abuja での一連の打開策合意書に調印する。同合意書には、同地域の反政府勢力との 20 ヶ月に及ぶ武力闘争を停止するための治安及び人道支援問題が含まれる。**[10dk]**

12月13日 ダルフール地方で続く闘争により、同紛争打開に向けた政治的指針策定の努力が軌道を外れていることが、Abujaで行われているアフリカ連合主催の会議代表によって伝えられる。[10dk]

12月31日 スーダン政府と SPLM/A との間で永久的な停戦が調印される。[10dl]

2005 1月9日 スーダン政府と SPLM/A との間で 21 年間にわたる内戦終結の包括和平協定 (CPA) が調印される。[10ac]

1月13日 National Movement for Reconstruction/Reform and Development が第三の反政府勢力としてダルフールに現われ、スーダン政府との交渉に成功すると伝えられる。[10dm]

1月25日 Report of the ICI on Darfur to the United Nations Secretary-General が発表され、ダルフール地方で行われた人権侵害は大量虐殺には当たらないという結論が提示される。[6e]

2月23日 Beja Congress (BC) 及び Free Lions (FL) Association が新しいグループ Eastern Front (EF) を結成したことが報道される。[12f]

3月29日：国連安全保障理事会が、人権侵害を犯したかあるいはダルフールの停戦合意に違反したと考えられる者に対して、財産の凍結及び旅行の禁止を課すことを決定する。同決議には、スーダン政府を含めて、ダルフール紛争に関わる非政府団体または個人に対する軍需品の売却または供給の禁止が規定されている。[10ac]

6月：政府と国外脱出している野党グループ NDA との間で、同グループとの政権運営を認める和解合意書が調印される。[9a] 2004 年 3 月にクーデター疑惑で拘束された Hassan al-Turabi 氏が大統領命令で解放される。[9a]

6月6日 ICC の検察官 Luis Moreno-Ocampo 氏がダルフールの人権侵害に関する調査を開始し、スーダン政府によって設置された法廷が 6 月 13 日、同地方での犯罪の容疑者 160 名の事案に関する聞き取りを開始する。[10ac]

7月9日 反政府勢力 SPLM/A の前指導者 John Garang 氏が副大統領に就任し、南部に大幅な自治権を認める暫定憲法が調印される。[9a] (4 ページ)

7月11日 al-Bashir 大統領が、紛争で荒廃したダルフールの 3 州及びエリトリア国境の東部 2 州を除くスーダン全州に対して 16 年間にわたる国家非常事態宣言の解除を発表する。[10i]

8月1日：政府が John Garang 氏の墜落による死亡を発表し、それがきっかけで南部のアフリカ系スーダン人と北部のアラブ系スーダン人の間で 3 日間にわたって首都 Juba 及びその他の町で流血の武力衝突が繰

り広げられる結果となる。**[9a]** (4 ページ) **[10ac]** **[38a]** **[15aa-15ab]**
Garang 氏の後任には Salva Kiir 氏が就く。**[9a]** (4 ページ) **[10ac]**
8 月 31 日 al-Bashir 氏の大統領令により承認されたスーダン新暫定議会
が最初の審議を開催する。**[10ac]**
9 月 20 日：国民統一政府 (GoNU) の発表が行われる。**[10ac]** **[25f]**
10 月 22 日：南スーダン政府 (GoSS) が樹立される。**[10ac]** **[25f]**
11 月：Minni Arko Minnawi 氏がダルフルの主要な反政府勢力である
SLM/A の新しい代表に選出されるが、現職の Abdel Wahed Mohamed
al-Nour 氏は選挙結果を認めない。**[10ac]**
11 月 29 日 第 7 回目のダルフル和平会談がナイジェリアの Abuja で開
催される。**[4a]**
12 月 5 日 Salva Kiir Mayardit 南スーダン大統領が南スーダン暫定憲法に
調印する。**[10ac]**

2006 **1 月**：ダルフルの 2 つの主要な反政府勢力である JEM 及び SLM/A が、
Alliance of Revolutionary Forces of West Sudan の旗印の下に同盟関係
を結成したことを発表する。**[13b]**
2 月 8 日 チャド政府及びスーダン政府がリビアで、お互いの反政府勢力
に対する支援を停止することで合意に達する。しかし、国境を越えた襲
撃が依然として続き、チャド政府軍幹部がダルフルに拠点を置くチャ
ド反政府勢力に鞍替えしたことによって、二国間関係の悪化の危険性が
増す。**[14a]**
5 月 5 日 首都 Khartoum の中央政府と SLM/A との間で和平協定が調印さ
れるが、2 つの小さな反政府グループがこの協定を拒否する。**[9a]** **[10dq]**
8 月：スーダンがダルフル地方への国連平和維持軍派遣を求める決議
を拒否する。**[9a]**
10 月 スーダン政府が同国東部出身の反政府勢力との間で和平協定に調
印する。**[9ax]**

2007 **7 月 14 日** 前反政府勢力指導者である Malik Agar 氏が Southern Blue Nile
州の新知事に就任したことが報道される。これにより、SPLM が 2005
年の和平協定調印以来、初めて Southern Blue Nile 州で政権を握ること
になる。
7 月 31 日 ダルフル派遣国連・アフリカ連合平和維持合同部隊
(UNAMID) が 12 ヶ月間設置される。

個人及び集団に対する人権侵害事件及び基本的自由の制限に関しては、
第 3 節 01：[History](#) 及び第 7 節 01：[Human rights](#) 参照。

付属資料 B：政治組織一覧

本一覧は全ての政治団体を網羅したものではない。

Alliance of the People's Working Forces

本部は首都 Khartoum。

指導者は Gaafar Muhammad Nimeri 氏。Kamal ad-Din Muhammad Abdullah 氏が書記長代理。[1a] (1113 ページ)

Baa'th Party

親シリア派及び親アラブ派は NDA のメンバー。

Danish FFM Report of 2001 では、汎アラブの Baa'th Party (BP) は親シリア派及び親アラブ (イラク) 派に分かれているが、両派とも攻撃の危険にさらされていると説明されている。[23b] (18 ページ) また、sudan.net の説明によれば、Baa'th Party は全アラブ語圏を含めた独立国家の樹立に向けた第一歩として、スーダンのエジプトまたはリビアとの統一を理念に掲げているという。[57] (3 ページ) しかし、Baa'th Party のこれら二国の政権に関するイデオロギー上の条件として、この理念のために積極的に政治的支援を行うことは禁止している。[57] (3 ページ) さらに sudan.net によれば、Nimeiri 政権及び al-Bashir 政権は、政権が交代する度に交互に Baa'th Party に対する寛容政策と迫害姿勢を繰り返しているとされる。[57] (3 ページ)

Beja Congress (BC)

Sudan Tribune 紙は 2006 年 6 月に Beja Congress (BC) の Abu Amna 氏によって書かれた書簡を掲載した。それは国連の Koffi Annan 事務総長宛に送られたものである。その中で同氏は BC に関して、「東スーダン国民の窮状を広く訴えることを目的に 1958 年に結成された政党であり、それが主に目標とするところは常に、同地域における差別及び発展の遅れに終止符を打つために民主主義、平等及び富と権力の公平な分配に向けた闘争を続けることである」と述べている。[12k]

Sudan Tribune 紙は 2004 年 8 月付のロイター通信の報道を転載し、その中で、東部の大部分を支配下に置いている BC は自ら決めた停戦を守り続けており、挑発されない限り攻撃することはないと伝えている。[25d] また、BC の停戦は、反政府勢力が南北間の和平交渉の最終結果を待っていた 2003 年 11 月以来有効であるとも報じている。[25d]

BC は、2005 年 1 月に Cairo を舞台にスーダン政府と NDA との間で行われた和平会談への出席を拒否したが、この会談の結果、両者の間で準備段階の和平協定が結ばれた。**[10dr] [9p]** 2005 年 1 月、Beja 族の指導的立場にあるメンバーは Port Sudan の政府当局に対して要求リストを提示し、この動きに続いて何千人もの Beja 族によるデモが行われた。**[9k] [17b] [16h-16i] [10u]**

IRIN は 2006 年 6 月 14 日、BC と FL との同盟組織である EF がエリトリア国境で活発に活動を展開しているが、戦闘は散発的で小規模なものに留まっていると伝えている。**[10ds]**

Democratic Unionist Party (DUP/DUP-Mirghani)

本部は首都 Khartoum で、指導者である Mohammad Osman (Uthman) al-Mirghani 氏は国外逃亡している。DUP は政治的には保守的なグループであり、野党勢力の NDA の創設時の政党のひとつである。**[1a] (1113 ページ)**

DUP は 1968 年、長い活動歴を持つ 2 つの政党である People's Democratic Party (PDP) と National Unionist Party (NUP) が統合されたことによって結成された。DUP はおおむね世俗的なイスラム教徒を中心とした政党であり、主にイスラム教の Khatmiya 派の支持を受けている。**[58] (565 ページ) [1a] (1089 ページ)** *Political Parties of the World* の記述によると、1989 年の軍事クーデター後、党指導者の Osman al-Mirghani 氏は国外へ逃れ、NDA と同盟関係を結び 1995 年にその議長になったと説明されている。**[58] (565 ページ)**

Report of the 2001 Danish FFM には、DUP は多くの小グループに分かれているが、主に Hindi 派及び Mirghani 派という 2 つの派閥があると記載されている。**[23b] (17 ページ)**

Democratic Unionist Party (DUP/DUP-Hindi) — (以前登録)

党指導者は Siddiq al-Hindi 氏である。Mirghani 氏率いる DUP の分派で、親政府の姿勢を取っており、NDA には属していない。

Siddiq al-Hindi 氏は 1997 年にスーダンに戻って DUP の分派を立ち上げたことで、彼はときに「DUP の書記長」と称されることがあるが、彼自身は議長である。**[58] (565 ページ)**

Free Sudanese National Party (FSNP)

本部は首都 Khartoum で、Philip Abbas Ghabbush 氏が議長を務める。**[1a] (1113 ページ)**

1999 年 4 月に政党として正式登録される。**[58] (565 ページ)**

Independent Democrats

本部は首都 Khartoum で、As-Samawitt Husayn Osman Mansur 氏が党指導者を務める。**[1a] (1113 ページ)**

Islamic-Christian Solidarity

本部は首都 Khartoum で、Hatim Abdullah az-Zaki Husayn 氏が党創設者である。**[1a] (1113 ページ) [58] (565 ページ)**

Islamic Revival Movement

本部は首都 Khartoum で、Siddiq al-Haj as-Siddiq 氏が党創設者である。**[1a] (1113 ページ) [58] (565 ページ)**

Islamic Socialist Party

本部は首都 Khartoum で、Salah al-Musbah 氏が党指導者を務める。**[1a] (1113 ページ)**

Islamic Ummah Party (IUP) — (以前登録)

1999 年 4 月 13 日に政党として正式登録される。Wali al-Din al-Hadi al-Mahdi 氏が党指導者を務める。名前は似ているが、Sadiq al-Mahdi 氏率いる Umma Party とはまったく別の政党である。IUP は政府と同盟関係にある。**[1a] (1113 ページ) [58] (565 ページ)**

Justice and Equality Movement (JEM)

2001 年に現われたダルフルに拠点を置く反政府勢力で、前大臣の Khalil Ibrahim 氏が党指導者を務める。**[6e] (39 ページ)** JEM は PNC とつながっていると報じられているが、Ibrahim 氏はこれを否定している。**[16p] [6e] (39 ページ)** 同党は 2004 年 5 月に 2 つの派閥に分かれ、一方を Ibrahim 氏が率い、もう一方を Gibril 大佐が率いている。**[6e] (39 ページ)**

The Report of the ICI on Darfur to the UN Secretary-General of January 2005 には次のように記載されている。

「“ 黒の宣言書 ” (The Black Book) が JEM の主要なイデオロギーの基礎となっているようである。2001 年に出されたこの政策宣言書は、経済的及び社会的

な発展に加えて政治的影響力の面においても、スーダンのダルフル地方及びその他の地域で同党が完全にながしろにされていることを証明しようとするものである。その中には、スーダンにおける“権力及び富の不均衡”を示す多くの事実が提示されている。同宣言書は、政府の示す肯定的な側面とは対照的な格差及び差別を明白に示すスーダンの解体書とでも言うべきものを意図した文書である。この本質的な意図が全ての差別に苦しむスーダン人に対して向けられており、それはアラブ人、アフリカ系アラブ人、アフリカ人、キリスト教徒、イスラム教徒といった区別に関係ないものである。このイデオロギーに基づいて、JEM は差別撤廃だけではなく政治的変革のためにも闘っており、現在のスーダン政府に向けた国民的な議題を提示している。」 [6e] (39 ページ)

同報告書にはまた次のように記載されている。「戦場において JEM と SLM/A を区別することは難しい。実際、反政府勢力の活動についての大部分の記事では両者を区別していない。JEM のメンバーは黄色いターバンを巻いていると報じられている。また、SLM/A のほうが軍事活動集団として規模が大きいようだが、JEM のほうがより政治色が強く、特に組織の分裂及び National Movement for Reconstruction/Reform and Development (NMRD) の出現の中で、武力が限定されるようになっている。」 [6e] (39 ページ)

ICI はさらに次のように報告している。「JEM 部隊のダルフルにおける規模及び地理的位置関係についてはほとんど情報が無い。メンバーの大部分は Zaghawa 族のようで、活動はほとんど西ダルフルの北部各地で行われていると報じられている。」 [6e] (39 ページ) NMRD は、JEM メンバーの武装グループへの Hasan al-Turabi 氏の影響力に対する不満が原因で分裂したところから生まれてきたものと伝えられている。 [10dm]

第 3 節 07 : [The Darfur conflict](#)、第 17 節 01 : [Ethnic groups/Darfur](#)、付属資料 B : [National Movement for Reconstruction/Reform and Development](#) 及び付属資料 D : [Black ethnic groups–Darfur](#) 参照。

Justice Party

本部は首都 Khartoum で、2002 年に Lam Akol 氏を含めた National Congress の前メンバーによって結成された。 [1a] (1113 ページ)

Korbaj (アラビア語で「鞭」の意味)

ICI によると、ダルフルまたはその付近に少数の新しい武装グループが複数現れたようだが、その政治理念、組織構造及び活動についてはほとんど情報が得

られていないという。ICI は、この Korbaj という武装集団はおそらくアラブ系の部族から構成されているだろうと推測している。[6e] (40 ページ)

Moderate Trend Party

本部は首都 Khartoum で、Mahmud Jiha 氏が党指導者を務める。[1a] (1113 ページ)

National Democratic Party

本部は首都 Khartoum で、2002 年の Union of Nationalistic Forces、Communist Party 及び National Solidarity Party の統合に続いて結成された。[1a] (1113 ページ) [58] (565 ページ)

National Movement for Reconstruction/Reform and Development (NMRD)

IRIN は 2005 年 1 月、次のように伝えている。「NMRD の指導者である Nourane Manawi Bartcham 氏は 12 月の終わりに N'Djamena で IRIN に対して、彼の率いる政党は、イスラム原理主義の政治家である Hassan Al Tourabi 氏の反政府運動に対する影響力に対して反対の意を唱え、昨年 4 月に JEM を離脱したと述べた。[10dm] また、NMRD は 1,000 名の兵士を抱えていると考えられており、JEM は NMRD のことを政府の手先だと考えている。」 [10dm]

ICI は次のように伝えている。「2004 年 6 月 6 日、NMRD は宣言書を発表し、4 月に政府、SLM/A 及び JEM の間で結ばれた停戦合意には応じるつもりはなく、政府と戦う意思があることを明らかにした。この戦闘の司令官及び兵士は、SLM/A で頭角を現している Wagi Zaghawa 族から生まれた分派集団である Kobera Zaghawa 族である。NMRD はチャド国境の町 Tine 及び西ダルフル州の Jabel Moun 地域で特に精力的に活動している。」 [6e] (40 ページ)

第 3 節 07 : The Darfur conflict、第 17 節 01 : Ethnic groups/Darfur、付属資料 B : Justice and Equality Movement 及び付属資料 D : Black ethnic groups–Darfur 参照。

Nile Valley Conference

本部は首都 Khartoum で、Umar Zaruq 氏が党創設者である。[1a] (1113 ページ) [58] (565 ページ)

Popular Masses' Alliance

本部は首都 Khartoum で、Faysal Muhmad Husayn 氏が党創設者である。[1a] (1113 ページ) [58] (565 ページ)

Popular National Congress Party (PNC/PC)

(People's National Congress または Popular Congress とも呼ばれている。)
2000年6月に結成された政党で、Hassan al-Turabi 氏が党創設者兼指導者である。**[1a]** (1113 ページ) **[58]** (565 ページ)

Europa Regional Surveys of the World: Africa South of the Sahara 2005 の説明によると、Hassan al-Turabi 氏は2000年6月、Popular National Congress Party (PNCP) という政党を自ら立ち上げたという。**[1a]** (1094 ページ) Al-Turabi 氏は2001年2月21日に拘束され、2003年10月に解放された。**[58]** (565 ページ) 英BBCの報道では、al-Turabi 氏及びPNCの他のメンバーがそれぞれ2004年3月下旬及び4月初めに逮捕されたとされている。**[9ao]** あるスーダンの新聞報道によると、スーダン政府当局は反政府イスラム教指導者である Hassan al-Turabi 氏率いる政党の政治活動を停止したという。また、治安部隊が党本部を閉鎖したという報道もある。**[9ao]**

スーダン政府は2004年9月に再び、PNC に対して時の政権転覆を計画しているとして非難を浴びせたが、同党は政府の主張を否定した。**[9a]** その直後、首都 Khartoum 及びダルフルで学生を含めた党の活動家が大量に逮捕され、首都の治安が厳しくなった。**[16r]** (20-21 ページ) Hassan al-Turabi 氏は2005年6月30日にスーダン政府によって解放されたが、同党のその他の多くのメンバーは依然として拘束されていると知られており、そう考えられている向きもある。**[16o-16p]** **[15a]** (8 ページ)

IRIN は2005年7月、Popular Congress、Ummah party 及び Communist Party が最近、多くの小政党と同盟関係を結び、GoNU に対する抵抗勢力を結成したと報じている。**[10i]**

第14節：Freedom of assembly and association/Members and supporters of the Popular/People's National Congress (PNC/PC)及び付属資料B：Justice and Equality Movement参照。

Al Shahamah (アラビア語で「崇高な運動」の意味。)

ICI の報告によると、ダルフルまたはその付近に少数の新しい武装グループが複数現れたようだが、その政治理念、組織構造及び活動についてはほとんど情報が得られていないという。**[6e]** (40 ページ) また、Al Shahamah と呼ばれる新しいグループは2004年9月の終わりに最初にその名前が噂されており、ダルフルの西部国境沿いにある Western Kordofan 州に拠点を構えていると報じら

れている。**[6e] (40 ページ)** さらに、この勢力は、同地域の公平な発展機会、政府と SPLM との間で調印された権力及び富の分配の見直し、Nuba Mountains 及び Southern Blue Nile 地域の行政制度に関する合意の改正を求めている。**[6e] (40 ページ)**

Socialist Popular Party

本部は首都 Khartoum で、Sayyid Khalifah Idris Habbani 氏が党創設者である。**[1] (1113 ページ) [58] (565 ページ)**

Sudanese Central Movement

本部は首都 Khartoum で、Muhammad Abu al-Qasim Haj Hamad 氏が党創設者である。**[1] (1113 ページ) [58] (565 ページ)**

Sudanese Communist Party

同党の結成について 1944 年と記載している資料があるが、同党のウェブサイトには 1946 年結成と書かれている。**[57], [59]** Mohammad Ibrahim Nogud 氏 (NDA 派)、Al Khatim Adlan 氏 (非 NDA 派) 及び Fatimah Ibrahim 氏 (派閥は不明) が党指導者を務める。

sudan.net の説明によると、SCP は 1944 年に結成され、当初は大学及び労働組合を強力な支持基盤としていたという。**[57] (3 ページ)** Danish FFM Report for 2001 には次のように記載されている。「SCP は少なくとも Nogud 派及び Al Khatim Adlan 派の 2 派に分かれている。**[23b] (17 ページ)** Adlan 派は NDA のメンバーではないが、両派ともスーダンでは禁止されており、治安部隊の監視下にあると伝えられている。**[23b] (17 ページ)** SCP はスーダンの南北両地域で支持を集めており、DUP 及び UP のような宗教を基盤とした政党である。」**[57] (3 ページ) [23b] (17 ページ)**

Danish FFM Report for 2001 にはさらに、1989 年のクーデター以来、SCP は現政権に対する最も強力な抵抗運動を展開する勢力のひとつであると記述されている。**[23b] (17 ページ)**

IRIN は 2005 年 7 月、Popular Congress、Ummah party 及び Communist Party が最近、多くの小政党と同盟関係を結び、GoNU に対する抵抗勢力を結成したと報じている。**[10i]**

Sudanese Green Party

本部は首都 Khartoum で、Zakaria Bashir Imam 教授が党創設者である。 [1] (1113 ページ) [58] (565 ページ)

Sudanese Initiative Party

本部は首都 Khartoum で、J'afar Karar 氏が党指導者を務める。 [1a] (1113 ページ)

Sudanese Liberation Movement/Army (SLM/A)

SLM/A は 2003 年 2 月にダルフルに現われた反政府勢力であり、統一スーダンの政治的及び経済的権利の拡大を要求している。 Abd al-Wahid Muhammad Ahmad al-Nur 氏が党指導者を務める。以前は分離主義グループとして Darfur Liberation Front と名乗っていたが、2003 年 3 月 14 日に改名した。(2004 年 3 月 11 日付 IRIN News: 'Who is Who') [10du] SLM/A の主要部門は Minni Minnawi 氏が率いている。 [10c]

2005 年 1 月発行の ICI 報告書には次のように記載されている。

「ICI がエリトリアの首都 Asmara で SLM/A の指導者と会合を持った結果、同党は政治部門である “ Movement ” と軍事部門である “ Army ” とに分かれていることがわかった。紛争の当初は SLM/A の組織構造は不明のままだった。SLM/A は 2003 年 10 月、北ダルフル州で会議を開いたと伝えられており、そこで組織構成の改変が話し合われ、軍事部門と政治部門との間で活動の明確なビジョンが決められた。今日、また ICI メンバーがエリトリアで SLM/A 代表たちと議論した結果、同党の政治部門の議長が Abdel Wahid Mohamad al Nur 氏であり、主要な軍事部門の指導者及びグループの書記長が Minnie Arkawi Minawi 氏であることがわかった。政府との和平会談の交渉チームの代表は Sherif Harir 氏である。軍事部門の構造の詳細及び実際の規模はほとんど知られていない。ICI が入手した情報では、SLM/A の武器の大部分は政府の軍事施設から略奪してきたものであり、特に警察署及び軍の兵舎からの略奪品が中心となっている。また、SLM/A の軍事部門の増強には海外からの支援も重要な役割を果たしているという情報もあるが、ICI の立場ではこれを確認することはできなかった。」 [6e] (38 ページ)

同報告書にはさらに次のように記載されている。

「ICI はダルフルの SLM/A 支配下地域についてほとんど情報を入手できていない。地方のある特定の地域がその支配下にあると言われているが、機動的なゲリラ集団としての活動を考えると、これらの支配地域は固定されたものでは

ないと言える。紛争の当初、戦闘の大部分は北ダルフール及び西ダルフール北部で行われていたように思われるが、2004 年の後半の数ヶ月の間に次第に南下していき、南ダルフールへと移っていった。」 [6e] (38 ページ)

2006 年 1 月、ダルフールの 2 つの主要な反政府勢力である SLM/A 及び JEM が、Alliance of Revolutionary Forces of West Sudan の旗印の下に同盟関係を結成することで合意したと報じられた。(2006 年 1 月 22 日付 AFP 通信) [13b]

第 3 節 07 : The Darfur conflict、第 17 節 01 : Ethnic groups/Darfur 及び付属資料 D : Black ethnic groups–Darfur 参照。

Sudanese National Movement for the Eradication of Marginalisation

ICI の報告によると、ダルフールまたはその付近に少数の新しい武装グループが複数現れたようだが、その政治理念、組織構造及び活動についてはほとんど情報が得られていないという。[6e] (40 ページ) この Sudanese National Movement for the Eradication of Marginalisation と呼ばれるグループは 2004 年 12 月に現われ、Western Kordofan の Ghubeish に対する攻撃を行ったことを自ら明言した。この勢力についてはほとんど知られていないが、SLM/A から生まれた分派集団であるという報告がある。[6e] (40 ページ)

Sudan People's Liberation Movement /Army (SPLM/A または SPLM の主流派)

1983 年[58 年]に結成された政党で、Salva Kiir 氏が党指導者を務める。NDA のメンバーである。2005 年 1 月 9 日の CPA 調印まで、スーダン南部を代表する反政府政治運動(軍事部門を持つ)を展開していた。[9a] 現在は南スーダン与党で、GoNU のメンバーとなっている。[10i, 10cr]

SPLM/A は 1983 年に結成された。この年、当時の Sudan People's Armed Forces (SPAF) の John Garang 中佐が Bor の南部部隊が起こした反乱を鎮めるために現地に送り込まれた。[57] (2 ページ) [58] (565 ページ) しかし、Garang 氏は反乱を鎮めるどころか、逆に他の部隊に対しても反乱を促したのだった。[57] (2 ページ) [58] (565 ページ)

Danish FFM Report for 2000 によると、スーダン市民は誰で部族的素性や宗教に関係なく SPLM/A に入ることができるという。[23a] (18 ページ) メンバーの大部分はスーダン南部の 3 州、Eastern Equatoria、Western Equatoria 及び Bahr El Ghaza 出身だが、政治部門のメンバーの中には Nuba Mountains、Blue Nile 及びダルフール出身の者もいる。[23a] (18 ページ)

2004 年 12 月 31 日、スーダン政府と SPLM/A の間で永久的な停戦が調印され、2005 年 1 月両者は CPA に調印し、20 年間にわたる南北間の内戦に終止符を打った。**[9au] [10dw-10dz]** John Garang 氏が 2005 年 7 月 9 日にスーダン第一副大統領になったが、その月の終わりに飛行機墜落事故で死亡した。**[15aa]** Garang 氏の下にいた Salva Kiir 氏が同氏を引き継いで SPLM の指導者となり、さらに第一副大統領に就任した。**[10i, 10cr]** SPLM は自決権を決める国民投票までの 6 年間南スーダンの自治を取り仕切ることになっており、議会で 28 パーセントの議席を持ち、中央政府の業務の 30 パーセントを担当することになる。**[9au-9av] [10dw-10dx, 10dy-10ea]**

South Sudan Independence Movement/Army (SSIM/SSIA)

同党は Nuer 族が支配する民兵組織である。Riek Machar 氏が党指導者を務めるが、彼は 1991 年に SPLM/A から離脱し SPLM/A-Nasir/United を結成した。Riek 氏は 1994 年 SSIM/A の指導者となり、Lam Akol 氏が Upper Nile 中西部で活動する自らの派閥名として SPLM/A-United という組織名を使うようになった。Riek 氏と Garang 氏は 1995 年停戦に調印し、お互いの軍を統合することで合意したが、1996 年 4 月 Machar 氏が政府と協定を結んだ。SSIM/A は 1997 年、1997 年 4 月の首都 Khartoum との和平協定に調印した他の反政府勢力と合同し、SSDF が結成された。(IRIN News) **[10dv]**

Sudanese National Party (SNP)

本部は首都 Khartoum で、Hasan al-Mahi 氏が党指導者を務める。NDA のメンバーである。SNP は、憲法及び政党結成に関する法律支持を表明したことによって、公式に認められている。Nuba Mountains の Kauda で開かれた All Nuba 会議の中で、SNP、FSNP 及び Sudan National Party の集団的指導体制を解体することで合意し、United Sudan National Party (USNP) として合同の新政党を結成した。**[52b]**

Umma (Ummah) Party (UP/主流派 UP')

コーラン及び Ansar Muslim 派のイスラム教の伝統に基づいたマーディ信仰の政党。Umar Nurad Ad-Da'im 氏が議長、Sadiq al-Mahdi 氏が党指導者を務める。

sudan.net の情報によると、議会制民主主義の最後の時期に UP は国家最大の政党だった。指導者である Sadiq al-Mahdi 氏 (1970 年以來) は 1986 年から 1989 年の間連立政権の下で首相を務めた。**[57] (1 ページ)** 同党は元々 1945 年、イスラム教の Ansar 運動の政治組織として結成されたものだった。**[57] (1 ページ)**

Institute for Security Studies (ISS) は、2003 年 5 月 1 日スーダンにおける和平継続の見通しについて報告した。[9be]

Danish FFM of 2001 は、同党の 1999 年和解合意に対する内部紛争が起こったが、政府との協力体制を継続していると伝えている。[23b] Europa 2005 の説明によると、同党は 2000 年 3 月まで NDA のメンバーだったという。[1a] (1113 ページ) UP は NDA 離脱以来、政府による妨害がほとんどないまま政党として活動することができていたが、2005 年 4 月に公式に政党活動が禁止された。[10w] IRIN は次のように伝えている。「報道機関の情報によれば、水曜日の朝、治安部隊が同党の本部を取り囲み、前政権の崩壊 20 周年を祝う集会を止めさせたという。何十人もの党職員及びメンバーが逮捕された。それに続いて、同党の登録が適切に行われていないという理由から、職員たちに全ての政治活動を禁止するという通知が出された。」 [10w]

しかし、IRIN は 2005 年 7 月、Popular Congress、Ummah party 及び Communist Party が最近、多くの小政党と同盟関係を結び、GoNU に対する抵抗勢力を結成したと報じている。[10i]

第 14 節 01 : Political affiliation: Freedom of assembly and association/Members and supporters of the Umma/Ummah Party (UP)参照。

Umma (Ummah) Party (以前登録)

UP の主流派からの分派集団で現在は存在していない。Nur Jadayn 氏が党指導者を務める。

South Sudan Defence Force (SSDF) 及び United Democratic Salvation Front (USDF) による合同グループ。現地の民兵組織が 1997 年 Khartoum 合意によって緩やかに統合され、スーダン政府と同盟関係を結んだ。2004 年 4 月発行の ISS 報告書によると、SSDF 及び USDF(前者の政治部門の指導者は Riek Mashar Teny-Dhurgon 氏) は両者とも内部的に分裂した組織だという。また、USDF は SSDF に対して十分な統制力を持っておらず、このグループの不安定要素がが和平プロセスにとって脅威となる。[43b] (SSDF : スーダン和平プロセスの課題)

同報告書はさらに、2004 年 4 月時点での SSDF の組織崩壊及びその他の民兵組織内のさまざまな分裂状況についても伝えている。[43b] (SSDF : スーダン和平プロセスの課題)

National Democratic Alliance (NDA)

Asmara を拠点とする組織で、Osman al-Mirghani 氏が議長を務める。[60a] (2 ページ) [58] (565 ページ) NDA を構成する野党勢力のメンバーには次のようなものがある。

Beja Congress (BC)*

Baa'th Party (pro-Iraq)* [23b]

Baa'th Party (pro-Syria) [23b]

Democratic Unionist Party (DUP – Mirghani faction and its groupings)* [23b]

Legitimate Command (LC)* – スーダン出身の反政府軍職員によって結成された。

Sudan Alliance Forces (SAF)* – Brigadier Abd el-Aziz Khalid Osman 最高司令官が 1994 年に結成した。

Sudan African National Union (SANU)* [23b]

Sudanese Communist Party (SCP – Nogud faction)* [23b]

Sudan Federal Democratic Alliance (SFDA)* – 1994 年結成で Ahmad Dreige 氏が議長を務め、スーダンの中央集権及び連邦体制を理念に掲げている。

The Sudanese National Party (SNP)* [23b]

The Sudan People's Democratic Front (SPDF) [23b]

The Sudan People's Liberation Movement (SPLM)* – Salva Kiir 氏が党指導者を務め、同氏は現在南スーダン大統領兼国民政府第一副大統領でもある。

Free Lions Association* – Mabrouk Mubarak 氏率いる武装反乱グループで、Kassala と Port Sudan の間のスーダン東部地域で活動している。[23b]

Sudan Liberation Movement – ダルフールを拠点とする武装反乱グループだが、国家的な理念を掲げている。[10du]

* Leadership Council of the NDA、General Council of the Trade Union Federation、名称不詳の民間の国家的な人物及び解放地域の名称不詳の代表メンバーである政党を表す。[60a] (1 ページ)

2005 年に出版された書籍 *Political Parties of the World* には次のように記載されている。「NDA は 1989 年 6 月のクーデター直後に、SPLM/A 及び多くのイスラム政党を含めた反 Bashir 政権を唱えるグループが統合した不安定な連立団体として結成された。このグループの多くは、イスラム法の南部への適用を支持していただけでなく、クーデター前の南部の自治または脱退にも反対していた。」 [58] (565 ページ) この連合グループのウェブサイトには、NDA の本部はスーダンではなくエリトリアの首都 Asmara にあり、Cairo、Nairobi、Washington 及び London にも支部があると掲載されている。[60a] (1 ページ)

IRIN 及び英 BBC は 2005 年 1 月、数ヶ月に及ぶ会談の末、政府と NDA は Cairo で暫定和平協定に調印し、南部の和平合意、新憲法の草案作成及び中立的な専門の軍組組織創設に対する支持を表明したことを報じた。**[10dm] [9p]** IRIN は 2005 年 2 月、NDA の高官 30 名が米国に本部を置く International Republican Institute の資金提供によって開催される会議に出席しており、スーダンの野党勢力の政治力拡大を目指していることを伝えている。**[10eb]** 2004 年 5 月の権力分配に関する合意に基づいて、NDA を構成する政党には議会で 14 パーセントの議席が与えられることになっている。**[10ea]**

付属資料B：[Beja Congress](#)参照。

付属資料 C：主要人物（過去及び現在）

以下に記載されている情報はスーダン政府の公式ウェブサイトから入手したものである。**[5c]** さらに詳細な政府閣僚一覧を参照されたい。ここに使われている綴り及び名称は、他の参考文献及び本 COI Report の中で違ったものが使われている可能性もあることを了承願いたい。

政府

国家元首

Umar Hassan Ahmad Al-Bashier 中将

第一副大統領

Salva Kiir Mayardit

第二副大統領

Ali Uthman Muhammad Taha

以下に記載されている情報は Gurtong Peace Project のウェブサイトから入手したものである。**[18k]** さらに詳細な政府閣僚一覧を参照されたい。ここに使われている綴り及び名称は、他の参考文献及び本 COI Report の中で違ったものが使われている可能性もあることを了承願いたい。

南スーダン政府

大統領

Salva Kiir Mayardit 中将

Vice-President

Riek Machar Teny 将軍

野党及び反政府勢力の主要人物に関しては付属資料B：Political organisations参照。

付属資料 D：主要な部族グループ

本一覧は全ての部族グループを網羅したものではない。

2007 年 3 月 6 日付 USSD Report on Human Rights Practices 2006 には、スーダンの人口は、たくさんの言語と方言を話す 500 を超えるアラブ系及びアフリカ系の部族から成る他民族構成となっていると記載されている。**[3a] (17 ページ)**

付属資料 E：[Languages of Sudan](#) 参照。

アラブ系部族グループ（大部分は北スーダン及びスーダン中央と南部の各地に分布）

Baggara 族、Batahin 族、Beni Helba 族、Budairia 族、Dar Hamid 族、Habbania 族、Hamar 族、Hamr 族、Hassania 族、Hawasma 族、Hawawir 族、Jawamia 族、Kababisch 族、Kawahila 族、Kinana 族、Jaalin 族、Jim 族、Manasir 族、Masiria 族、Musallmia 族、Rubatab 族、Rufaa 族、Ruzaikat 族、Schaikia 族、Schukria 族、Selim 族及び Taaischa 族。

Encyclopaedia Britannica (EB) は次のように説明している。「自らをアラブ系と称するスーダン人の大部分は混合民族であり、多くは南部の黒人と見分けがつかない。**[62b] (2 ページ)** また、同じ言語及び宗教を共有しているにもかかわらず、アラブ系の人々の結びつきは強くない。彼らは生活様式が大きく異なり、都市生活者、村の農家及び牧畜を営む遊牧民といった具合に様々である。**[62b] (2 ページ)**

EB 2004 には次のように記載されている。

「アラブ系の人たちは歴史的に、共通の祖先とつながっていると推定される家系に基づいて諸部族に分かれている。彼らの部族制度は都市部及び村で大きく分裂しているが、牛や羊、駱駝を育てて生活している遊牧民の間でのみその強いつながりを保っている。それぞれの部族または部族集団はより大きなグループに属しており、その中の最大のグループが Jalayin 族及び Juhaynah 族の 2 つである。」 **[62b] (2-3 ページ)**

さらに EB 2004 によれば、Jalayin 族が Nile 中央部に定住して農業を行っている一方で、Juhaynah 族はスーダン西部及び北東部の遊牧民を従えているというが、その中には定住民族も含まれている。**[62b] (3 ページ)** 写真家の F Jack Jackson 氏のウェブサイトには、南北間の内戦勃発前にスーダンで撮影した Baggara 族の女性の写真が掲載されている。**[66a]**

Beja 族（スーダン北東部）の名で総称されている非アラブ系部族グループ

Amarar 族、Beni Amer 族、Bischarin 族及び Hadendoa 族。**[40]**

EB 2004 及び US Library of Congress' Country Study of 1991 (LoC 1991) の説明によると、古代から現代に至るまで Red Sea Hills で牧畜を営みながら暮らしていると考えられている遊牧民 Beja 族の大部分は、第二言語としてアラビア語を話しており、アラブの影響から Beja 族はイスラム教を信仰するようになった。**[62b] (3 ページ) [37a] (4 ページ)** LoC 1991 には、Beja 族はアラブ系の先祖とのつながりを表す家系図を使っており、アラブ系の名前を採用し、言語にアラビア語の言葉を導入していると書かれている。**[37a] (4 ページ)** しかし、EB 2004 及び LoC 1991 の両方とも、Beja 族の大部分が土着の民族を先祖としており、Bedawiye 語を今なお捨てずに保っているという点で記述が一致している。**[62b] (3 ページ) [37a] (4 ページ)** LoC 1991 は、Beja 族の大部分が 1990 年代には Bisharin 族、Amarar 族、Hadendown 族及び Bani Amar 族のひとつに属していたと記述している。**[37a] (4 ページ)**

2006 年 1 月版 ICG 報告書には次のように記載されている。

「Red Sea、Kassala 及び Gedaref3 州の人口は合計約 400 万人であり、実質的には Beja 族国家で構成されている。Beja 族国家は、4,000 年以上にわたってナイル川と紅海の間の半乾燥地帯に暮らしていた人々を先祖とする土着の非アラブ系部族の連合体である。Handendowa 族が Beja 族最大の集団（南部の Dinka 族及びダルフルの Fur 族に次いで、スーダン最大の部族のひとつでもある）であり、600,000 人の人口を抱えていると推定されている。その他の Beja 族最大のグループには、主に Red Sea 州に暮らす Amar'ar 族、スーダンとエリトリアに跨る Beni Amer 族及びスーダンとエジプトに跨る Bishariyyin 族がいる。Beja 族のほぼ全員が TuBedawiye 語（クシト語族）を話す、例外として Tigre 語（セム語族）を母語とする Beni Amer 族がある。」 **[14b] (2 ページ)**

黒人部族グループ：ダルフル（北西スーダン）

Dago 族、Fur 族、Maba 族、Massaleit 族、Tama 族及び Zaghawa 族。[40]

2000 年 7 月発行の UNHCR 背景情報要覧（UNHCR July 2000 Background Paper）によると、Massaleit 族はスーダン北西部のダルフル地方に住むアフリカ系黒人イスラム教徒であると記述されている。[6z]（19 ページ）

Encyclopaedia Britannica Online の説明によれば、Fur 族はもうひとつの非アラブ系イスラム教徒であり、彼らはさらに西部の Marra Mountains 付近に定住して農業を営んでいるとされている。[62b]（3 ページ）LoC 1991 には、Fur 族は長い間アラブ人に囲まれ支配されていた歴史があるにもかかわらず、アラブ化に抵抗したと書かれている。[37a]（5 ページ）さらに、多くの牛の群れを獲得した Fur 族は近隣の Baqqara 族のアラブ人と同じような生活をするのでしかその生活様式を保つことができず、この様式を固守した人たちが最終的に Baqqara 族と見なされるようになった。[37a]（5 ページ）

EB 2004、LoC 1991 及び Ethnologue 2004 の説明には、Fur 族の地域から北にある台地にはアラブ人が Zaghawa 族と呼んでいる部族が暮しており、彼らは Zaghawa 語を話し、その多くがチャドで暮している。[62a] [63]（21 ページ）[37a]（5 ページ）LoC 1991 は Zaghawa 族について、自らを Beri 族と称する半遊牧民族であると説明している。[37a]（5 ページ）Ethnologue 2004 は、スーダンに住んでいる Zaghawa 族は 1982 年にはおよそ 102,000 人だったと記述している。[63]（21 ページ）LoC 1991 にはさらに次のように記載されている。「牛や駱駝、羊、山羊の群れを飼育しながら、Zaghawa 族は野生の穀物及びその他の食糧を採集して生活の大部分を支えている。[37a]（5 ページ）また、Zaghawa 族はイスラム教に改宗したが、伝統的な宗教信仰も保持している。[37a]（5 ページ）」

HRW はそのウェブサイト上に 2004 年付のダルフル地方の地図を転載し、同地方の主な部族の居住場所を概説している。[19n]

Nubian 族（スーダン北部地域）の名で総称されている黒人部族グループ

Anag 族、Barabra 族、Birked 族、Danagla 族、Dilling 族、Mahas 族及び Midobi 族。[40]

EB 2004 は、アラブ系の人たちに加えて、北部にはイスラム教徒だが非アラブ系の部族グループも存在すると記述している。[62b]（3 ページ）EB 2004 及び LoC 1991 の説明によれば、その中でも最も代表的なのが、最北部のナイル川沿

い及びエジプト南部に暮しているヌビア人であるとされている。**[62b] (3) [37a] (4 ページ)** しかし、LoC 1991 にはまた、ナイル川沿いで生活しているヌビア人たちは首都 Khartoum、Kassala 及び Port Sudan に再定住したことが知られているとも記述されている。**[37a] (4 ページ)** EB 2004 及び LoC 1991 は、彼らはヌビア語を話すが、その大部分は第二言語としてアラビア語も話すと説明している。**[62b] (3 ページ) [37a] (4 ページ)** LoC 1991 にはさらに、これと関連した言語を話し、ナイル川沿いのヌビア人たちとつながりを持っていると主張するさらに小さなグループには、Birqid 族やダルフル州の Meidab 族といった現地の名前がつけられているという記述もある。**[37a] (4 ページ)**

第 17 節 01：[Ethnic groups/Nubians](#)参照。

Nuba 族（スーダン中央部）の名で総称されている黒人部族グループ

Kadugli 族、Katla 族、Koalib 族、Krongo 族、Nemyang 族または Nyima 族、Tagoi 族及び Temeini 族。

EB Online の説明によると、スーダンで最も重要な非イスラム教徒の民族は Nuba 族であるとされており、彼らは Nilotes から北の Nuba Mountains に暮している。**[62b] (4 ページ)**

LoC 1991 には次のように記述されている。「Nuba 族の話す Kurdufanian 語系の諸言語は、近隣地域で話されている言語以外はほとんど部族間でお互いに理解することができないものである。**[37a] (9 ページ)** 周辺の部族がアラブ化したのに対して、アラビア語を母国語としている人は Nuba 族にはほんのわずかしおらず、イスラム教に改宗した人はさらに少ない。**[37a] (9 ページ)**

LoC 1991 にはさらに次のように記述されている。「Nuba 族と総称されているこれらの部族グループは、文化及び社会構造が大きく異なっている。**[37a] (9 ページ)** 男性側の家系を基に先祖を辿っていく男系の構造を持っている人たちもいれば、女性側の家系を基に先祖を辿っていく女系の構造を持っている人たちもいる。また、Nuba 南東部には、同じ地域で男系と女系の両方の構造を持っている珍しい人たちもいる。**[37a] (9 ページ)** ナイル川沿いで生活しているヌビア人たちは、伝統的な故郷の土地とのつながりを保ちたいと考えているが、首都 Khartoum、Kassala 及び Port Sudan に再定住し、召使や半技術労働者として働く人、教師や公務員となっている人もいる。**[37a] (4 ページ)**

Leni Riefenstahl のウェブサイトに掲載されている情報によると、このドイツ人写真家は 1962 年から 1977 年まで少なくとも 2 種類の別の Nuba 族と暮していたという。**[65a]** このサイトには何枚もの写真が掲載されており、その中の主なものは Masakin Qisar Nuba 族及び Kau Nuba 族のものである。**[65a] [65b]** これらの写真には 2 つの部族の文化的な慣習に関する情報が含まれており、様々な皮膚の乱切法が紹介されている。**[65a] [65b]** さらに、もう 1 人の写真家 F Jack Jackson 氏のウェブサイトには、南北間の内戦勃発前にスーダンで撮影した Nuba 族の人々の写真が掲載されている。**[66a]**

黒人部族グループ（スーダン中央部及び南部）

Acholi 族、Anuak 族、Azande 族、Baka 族、Banda 族、Bari 族、Berta 族または Schankalla 族、Bongo 族、Dinka 族、Karamojo 族、Koma 族、Kreisch 族、Lango 族、Lotuko 族、Luo 族、Madi 族、Mangbetu 族、Moru 族、Mundu 族、Murle 族または Molen 族、Ndogo 族、Nuer 族、Shilluk/Schilluk 族、Serez 族及び Turkana 族。

EB Online の説明によると、ナイル川流域の民族の中で主要なのは Dinka 族、Nuer 族及び Shilluk 族であり、彼らはスーダンの全人口のほぼ 5 分の 1 を占めているという。**[62b] (4 ページ)** Ethnologue 2004 及び Languages of the World of 1995 は、これらの 3 つのグループの言語はその部族名と同じ名前と呼ばれていると記述している。（例えば、Dinka 族の言語は Dinka 語。）**[63] (6-7 ページ, 16, 17 ページ)[49] (358 ページ)** LoC 1991 には次のように記述されている。

「Dinka 族はスーダン南部の人口のおよそ 40 パーセントを占めており、これはスーダン全体の人口の約 10 パーセントに当たる。Nuer 族は Dinka 族の 4 分の 1 から 3 分の 1 くらいの規模であり、Shilluk 族は Nuer 族の約 4 分の 1 の規模である。**[37a] (6 ページ)** Dinka 族には 25 もの部族集団があると考えられており、Nuer 族には 9 から 10 の名前の違うグループがいる。**[37a] (6 ページ)**

EB はさらに、Dinka 族の大部分は White Nile の東にある台地で牛を飼って生活しているが、Shilluk 族はナイル川の西側に定住して農業を営んでおり、Nuer 族は Mountain Nile の東南部で暮らしている、と説明している。**[62b] (4 ページ)** また、LoC 1991 には次のように記載されている。「Dinka 族は南部の北部地域に広く分布しており、特に Aali an Nil 及び Bahr al Ghazal に多く住んでいる。**[37a] (6 ページ)** Nuer 族は 広い地域に暮らしているが、自らを Collo 族と称している Shilluk 族は、Bahr al Jabal が White Nile と合流する地点からちょうど北にある限られた特定の地域に永続的に定住している。」**[37a] (6-7 ページ)**

Gurtong Peace Project のウェブサイトは南スーダンの地域社会について概説している。**[18]**

付属資料 E：スーダンの言語

本一覧は全ての言語情報を網羅したものではない。

約 20,000 人が話していると考えられているスーダンの言語に関しては、Ethnologue を参照。[63]

EB の説明によると、スーダンでは母語として話されている言語は 100 以上存在するとされている。[62b] (6 ページ) Ethnologue 2004 にはスーダンの 142 の言語の一覧が掲載されており、その中で 134 は今でも話されているが、8 は既に使われていないと説明されている。[63] (1 ページ) LoC 1991 には次のように記載されている。「スーダンで話されている言語の数は、少数の人たちしか使っていないものも含めて約 400 と考えられている。[37a] (2 ページ) さらに、北部では広く英語が第二言語として使われているが、南部ではそれほど広く話されてはいない。」[37a] (5 ページ)

付属資料D：[Main ethnic groups](#)参照。

アケロン語

使用地域：北スーダン、Kordofan Province 及び Nuba Hills 南部。

別称：GARME。

方言：EASTERN ACHERON, WESTERN ACHERON。

言語分類：ニジェールコンゴ語族、コルドファニア語群、コルドファニア語群固有、タロディ語族、タロディ語族固有、トッチョ語族。[63]

アチョリ語

使用地域：スーダンで 27,000 人 (SIL1978 年)。スーダン南部、Opari District、Acholi Hills。

別称：ACOLI, ATSCHOLI, SHULI, GANG, LWO, AKOLI, ACOOLI, LOG ACOLI, DOK ACOLI。

言語分類：ナイロサハラ語族、東スーダン語族、ナイル言語群、西部語族、ルオ語、南部語族、ルオアチョリ語族、アルールアチョリ語族、ランゴアチョリ語族。[63]

アヌアク語

使用地域：スーダンで 52,000 人 (UBS1991 年)。使用国家全人口合計の人口合計 98,000 人。

別称：ANYWAK, ANYWA, YAMBO, JAMBO, NURO, ANYUAK, DHO ANYWAA。

言語分類：ナイロサハラ語族、東スーダン語族、ナイル言語群、西部語族、ルオ語、北部語族、アヌアク語族。[63]

アマ語

使用地域：70,000 人（SIL1982 年）。Sudan 北部、Kordofan Province、Jebel Nyimang が一部を形成する丘陵地帯にある Dilling の北西及び Mandal の山脈地域。

別称：NYIMANG, INYIMANG, NYIMA, NYIMAN。

言語分類：ナイロサハラ語族、東スーダン語族、西部語族、ナイマング語。[63]

標準アラビア語

使用地域：中東、北アフリカ。

言語分類：アフリカアジア語族、セム語族、中央語族、南部語族、アラビア語。

アラビア語系スーダンクレオール語

使用地域：Juba だけで 20,000 人が第一言語として使用し、44,000 人が第二言語として使用している（1987 年推定人数）。スーダン南部、Equatoria Region 全土の町及び村、Bahr al Ghazal、Upper Nile。当該地域の難民は他国へ移住。

別称：JUBA ARABIC, SOUTHERN SUDAN ARABIC, PIDGIN ARABIC。

言語分類：アラビア語系クレオール語。[63]

アラビア語系スーダン語口語

使用地域：スーダンで 15,000,000 人以上の人々が話しており、人口の 51 パーセントに当たる（1991 年）。使用国家全人口合計は 16,000,000 人から 19,000,000 人。

別称：KHARTOUM ARABIC。方言：KHARTOUM, WESTERN SUDANESE, NORTH KORDOFAN ARABIC, JA'ALI, SHUKRI。

言語分類：アフリカアジア語族、セム語族、中央語族、南部語族、アラビア語。

[63]

バカ語

使用地域：スーダンで 25,000 人が使用（UBS1993 年）。使用国家全人口合計は 26,300 人。

別称：TARA BAAKA。

言語分類：ナイロサハラ語族、中央スーダン語族、西部語族、ボンゴバギルミ語族、ボンゴバカ語族、バカ語。[63]

バリ語

使用地域：Kuku の 26,400 人、Nyangbara の 18,000 人、Nyepu の 3,400 人及び Pojulu の 25,000 人を含めてスーダンで 226,000 人（SIL1978 年）。使用国家全人口合計は 286,000 人以上。

別称：BERI。

方言：KUKU, NYANGBARA (NYANGWARA, NYAMBARA), NYEPU (NYEFU, NYEPO, NYPHO, NGYEPU), PÖJULU (PAJULU, FADJULU, FAJELU, MADI), LIGO (LIGGO)。

言語分類：ナイロサハラ語族、東スーダン語族、ナイル言語群、東部語族、バリ語。[63]

ベダウィ語

使用地域：Hadendoa 族の 30,000 人及び Bisharin 族の 15,000 人（1992 年）を含めてスーダンで 951,000 人（SIL1982 年）。使用国家全人口合計は 1,148,000 人。

別称：BEJA, BEDAWIYE, BEDAUYE, TO-BEDAWIE, BEDJA。

方言：HADENDOA (HADENDOWA, HADENDIWA), HADAREB (HADAAREB), BISHARIN (BISARIAB), BENI-AMIR。

言語分類：アフリカアジア語族、クシト語族、北部語族。[63]

ベルタ語

使用地域：22,000 人。スーダン北部。別称：BARTA, BURTA, 'BENI SHANGUL', WETAWIT。

方言：SHURU, BAKE, UNDU, MAYU, FADASHI。

言語分類：ナイロサハラ語族、ベルタ語。[63]

ダジク語

使用地域：（ギレ族と合わせて 38,000 人、SIL 1982 年）。スーダン北部、Kordofan Province、Nuba Mountains、Mesakin Hills の外側の丘陵地帯、Reika village。

別称：MASAKIN, MASAKIN DAGIG, DAGIG, REIKHA, DENGEBU。

言語分類：ニジェールコンゴ語族、コルドファニア語群、コルドファニア語群固有、タロディ語族、タロディ語族固有、ギレデングェブ語族。[63]

ダジュ語、ダルフル語

使用地域：ダルフルの全ダジュ族 70,000 人から 90,000 人が使用（Bender1983 年）。スーダン北部、Dar Fur Province、Nyala から北東へ 25 マイルにある Daju Hills、Dar Masalit の Geneina District。西コルドファン方言は Lagowa 付近の Daju Hills で使われており、主に Dar el Kabira、Nyukri、Tamanyik 及びその他の丘陵地帯が定住地域である。

別称：NYALA-LAGOWA, FININGA, DAGU, DAJU FERNE, BEKE. Dialects: NYALA, LAGOWA。

言語分類：ナイロサハラ語族、東スーダン語族、西部語族、ダジュ語族、西ダジュ語族。[63]

ダジュ語、ダルシラ語

使用地域：スーダン北部。スーダンのダルシラ地方のダジュ族のほぼ全員はダルフル地方に移住し、近年定住している。

別称：SILA, SULA, MONGO-SILA, BOKOR, BOKORUGE, BOKORIKE。

方言：MONGO, SILA。言語分類：ナイロサハラ語族、東スーダン語族、西部語族、ダジュ語族、西ダジュ語族。[63]

ディディングア語

使用地域：58,000 人（SIL1978 年）。スーダン南部、Didinga Hills、Nagishot から北。

別称：‘DI’DINGA, XAROKA, TOI, LANGO。

言語分類：ナイロサハラ語族、東スーダン語族、東部語族、サーミック語族、南部語族、何西部語族、ディディングアムルル語族、ディディングアロンガリム語族。[63]

北東部ディンカ語

使用地域：Abialang の 7,200 人、Dongjol の 9,000 人、Luac の 2,500 人、Ngok-Sobat の 16,000 人、Jok の 20,000 人、Ageer の 13,500 人、Rut の 2,000 人及び Thoi の 400 人を含めて 320,000 人（UBS1986 年）。スーダン南部、Sudd の北東、White Nile の両岸、Sobat River 沿い。

別称：PADANG, WHITE NILE DINKA。

方言：ABILIANG (DINKA IBRAHIM, AKOON, BAWOM, BOWOM), DONGJOL, LUAC (LUAIC), NGOK-SOBAT (NGORK, JOK), AGEER (AGER, AGEIR, ABUYA, BEER, NIEL, NYEL, PALOC, PALOIC), RUT, THOI。

言語分類：ナイロサハラ語族、東スーダン語族、ナイル言語群、西部語族、ディンカヌエル語族、ディンカ語族。[63]

北西部ディンカ語

使用地域：Ruweng で 80,000 人（1986 年）。スーダン南部、Bahr el Ghazal River の北、Abyei 周辺の Kordofan 南部。

方言：ALOR, NGOK-KORDOFAN, PAN ARU, RUWENG。

言語分類：ナイロサハラ語族、東スーダン語族、ナイル言語群、西部語族、ディンカヌエル語族、ディンカ語族。[63]

中南部ディンカ語

使用地域：Aker の 2,000 人、Thany の 2,000 人、Ciec の 22,000 人、Gok の 25,000 人を含めて 250,000 人（Tucker 及び Bryan）。（ディンカ族合計 2,000,000 人以上）。スーダン南部、ナイル川西部、Sudd の南。Aker は Agar の東南にある。Aliap は、ナイル川東岸の漁業の村にある Bor の南である。Ciec はナイル川西岸の Lakes District にある。Gok は、それぞれ Jur River と Lakes districts にある Agar 及び Rek の間にある。

別称：AGAR, CENTRAL DINKA. Dialects: ALIAP (ALIAB, THANY, AKER), CIEC (CIEM, CIC, CHIECH, KWAC, AJAK, ADOR), GOK (GAUK, COK), AGAR.

言語分類：ナイロサハラ語族、東スーダン語族、ナイル言語群、西部語族、ディンカヌエル語族、ディンカ語族。[63]

東南部ディンカ語

使用地域：Atoc の 21,000 人、Ghol の 9,000 人、Nyarung の 4,000 人、Twi の 35,000 人、Bor Gok の 21,000 人を含めて 250,000 人（Tucker 及び Bryan）。South Central（Agar）及び South-eastern（Bor）を含めて 500,000 人（UBS1982 年）。スーダン南部、ナイル川の東、Bor 周辺及び北部。

別称：BOR, EASTERN DINKA.

方言：BOR (BOR GOK), ATHOC (ATHOIC, ATOC, BORATHOI, BOR ATHOIC), GHOL, NYARWENG (NYARUENG, NARREWENG), TUIC (TWI).

言語分類：ナイロサハラ語族、東スーダン語族、ナイル言語群、西部語族、ディンカヌエル語族、ディンカ語族。[63]

南西部ディンカ語

使用地域：Abiem の 55,000 人、Luac の 15,000 人、Malual の 40,000 人、Paliet の 17,000 人、Palioupiny の 35,000 人及び Tuic の 50,000 人を含めて 450,000 人（UBS1982 年）。スーダン南部、Wau の北及び北西。

別称：REK, WESTERN DINKA.

方言：REK (RAIK), ABIEM (AJONG DIT, AJONG THI, AKANY KOK, AKERN JOK, APUOTH, APWOTH, ANEI), AGUOK (AGWOK), APUK, AWAN, LAU, LUAC, MALUAL (MALWAL, ATOKTOU, DULIIT, KOROK, MAKEM, PETH), PALIET (BALIET, AJAK, BUONCWAI, BON SHWAI, BWONCWAI, KONGDER, KONDAIR, THANY BUR, TAINBOUR), PALIOUPINY (PALIOPING, AKJUET, AKWANG, AYAT, CIMEL, GOMJUER), TUIC (TWIC, TWICH, TWIJ, ADHIANG, AMIOL, NYANG, THON).

言語分類：ナイロサハラ語族、東スーダン語族、ナイル言語群、西部語族、ディンカヌエル語族、ディンカ語族。[63]

フルフルデ語、アダマワ語

使用地域：スーダンで 90,000 人（UBS1982 年）。スーダン南部、Blue Nile、Kordofan 地域。

別称：FELLATA。

方言：GOMBE。

言語分類：ニジェールコンゴ語族、大西洋コンゴ語族、大西洋語族、北部語族、セネガンビア語族、フーラウォロフ語族、フラニ語族、西部語族。[63]

フル語

使用地域：スーダンで 500,000 人（Bender1983 年）。使用国家全人口合計は 502,000 人。

別称：FOR, FORA, FORDUNGA, FURAWI, FURAKANG, FORTA, FOROK, KONJARA, KUNGARA, YERGE, ONAGE, KORRA, KADIRGI, KURKA, DALA, LALI。

言語分類：ナイロサハラ語族、フル語族。[63]

ガアマ語

使用地域：40,000 人から 80,000 人（M L Bender1997 年）。スーダン南部。主要な中心地域は Jebel Tabi とその周辺、Tabi Massif 及び遠隔の丘陵地帯。首都 Khartoum の小規模地域。エチオピアは入らない。

別称：INGASSANA, INGESSANA, TABI, METABI, MUNTABI, MAMEDJA, MAMIDZA, KAMANIDI。

言語分類：ナイロサハラ語族、東スーダン語族、東部語族、東ジェベル語族、ガアマ語族。[63]

グムズ語

使用地域：スーダンで 40,000 人。スーダン北部、Famaka 周辺、エチオピア国境の Roseires から Fazoglo。

別称：MENDEYA, DEBATSA, DEGUBA, DEHENDA, GUMIS, GOMBO, SHANKILLINYA, SHANQILLA。

方言：DISOHA (DESUA), DAKUNZA (DEGOJA, DUKUNZA, GUNZA, GANZA, DUKUNA, DUGUNZA), SAI, SESE (SAYSAY), DEKOKA, DEWIYA, KUKWAYA, GOMBO, JEMHWA, MODEA。

言語分類：ナイロサハラ語族、クムズ語族、グムズ語族。[63]

ハウサ語

使用地域：スーダンで 418,000 人（Johnstone 1993 年）。スーダン北部。

言語分類：アフリカアジア語族、チャド語群、西部語族、A、A.1。 [63]

ジュムジュム語

使用地域：25,000 人から 50,000 人（SIL1987 年）。Jebels Tunga、Terta 及び Wadega の Khor Jumjum 沿いの Upper Nile Province 北部。

別称：BERIN, OLGA, WADEGA。

言語分類：ナイロサハラ語族、東スーダン語族、ナイル言語群、西部語族、ルオ語族、北部語族、マバンプルン語族、マバン語族。 [63]

中央カヌリ語

使用地域：スーダンで 195,000 人（Johnstone1993 年）。北部。

別称：YERWA KANURI, KANOURI, BORNU, BORNOUNS, KANOURY, KOLE, SIRATA, 'BERIBERI'。

方言：DAGARA, KAGA (KAGAMA), SUGURTI, LARE, KWAYAM, NJESKO, KABARI (KUVURI), NGAZAR, GUVJA, MAO, TEMAGERI, FADAWA, MAIDUGURI。

言語分類：ナイロサハラ語族、サハラ語族、西部語族、カヌリ語族。 [63]

カクワ語

使用地域：スーダンで 40,000 人（SIL1987 年）。スーダン南部。西の Aba の DRC 及び南の Mahagi 周辺まで広がる Yei District。

別称：BARI KAKWA, KAKUA, KWAKWAK, KAKWAK。

言語分類：ナイロサハラ語族、東スーダン語族、ナイル言語群、東部語族、バリ語族。 [63]

カッチャカドゥギリミリ語

使用地域：Kadugli 族と Katcha 族の 48,864 人及び Miri 族の 26,071 人を含めた 74,935 人（R C Stevenson1984 年）。スーダン北部、Kordofan Province、Nuba Hills 地域の南部。Katcha 族は Kadugli からすぐ南の地域及び Miri Hills から東南に住んでいる。Kadugli 族も Kadugli 周辺の村で暮している。Miri 族は Kadugli から南の Miri 村に住んでいる。

方言：KATCHA (TOLUBI, DHOLUBI, TUNA, KACA), KADUGLI (DAKALLA, TALLA, DHALLA, TOMA MA DALLA, KUDUGLI, MORTA), MIRI, DAMBA。

言語分類：ニジェールコンゴ語族、コルドファニアン語群、カドゥギリ語族、中央語族。 [63]

ケヌジドンゴラ語

使用地域：スーダンの 180,000 人（1996）。使用国家全人口合計は 280,000 人。

別称：DONGOLA-KENUZ, NILE NUBIAN, DONGOLAWI。

方言：DONGOLA, KENUZI (KENUZ, KUNUZI)。

言語分類：ナイロサハラ語族、東スーダン語族、東部語族、ヌビア語族、中央語族、ドンゴラウィ語族。[63]

コアリブ語

使用地域：44,258 人 (R C Stevenson1984 年)。スーダン北部、Northern Sudan, Kordofan Province 南部、Nuba Mountains、Umm Berumbita 及び Turum

(Nguqwurang) を含めた Delami 周辺、Koalib range (Ngunduna) 周辺の Abri から南及び南西、Nyukwur とその周辺、Umm Heitan 及び Hadra (Nginyukwur)、Abri (Ngirere) 周辺の平野部に点在する村。

別称：KAWALIB, KOWALIB, NGIRERE, NIRERE, RERE, LGALIGE, ABRI。

方言：NGUQWURANG, NGUNDUNA, NGINYUKWUR, NGIRERE, NGEMERE。

言語分類：ニジェールコンゴ語族、コルドファニアン語群、コルドファニアン語群固有、ヘイバン語族、中西部語族、中央部語族、レレ語族。[63]

クロンゴ語

使用地域：21,688 人 (R C Stevenson1984 年)。スーダン北部、Krongo Hills、Masakin の南及び Talodi の西、Kordofan Province。

別称：KORONGO, KURUNGU, KADUMODI, TABANYA, DIMODONGO。

方言：FAMA-TEIS-KUA。

言語分類：ニジェールコンゴ語族、コルドファニアン語群、カドゥギリ語族、東部語族。[63]

ランゴ語

使用地域：推測 20,000 人 (SIL1987 年)。スーダン南部、Equatoria Province 東部、Torit District。

別称：LANGGO。

言語分類：ナイロサハラ語族、東スーダン語族、ナイル言語群、東部語族、ロツゾテソ語族、ロツゾマア語族、ロツゾ語族。[63]

ラロ語

使用地域：40,000 人 (現地の推定 1998 年)。スーダン北部、Nuba Hills の Laro (Alleira) 及び付近の小さな丘陵沿い。

別称：LARU, AALEIRA, YILLARO, NGWULLARO。

方言：TUNDULI, LARO。

言語分類：ニジェールコンゴ語族、コルドファニアン語群、コルドファニアン語群固有ヘイバン語族、中西部語族、中央部語族、エバングロゴル語族、エバングラル語族。[63]

ロピット語

使用地域：50,000 人（Scott Randal1995 年）。スーダン南部、Equatoria Province 東部、Lopit Hills、Torit 北東部。

別称：LOPIT, LOPID, LOFIT, LAFITE, LAFIT, LAFIIT。

言語分類：ナイロサハラ語族、東スーダン語族、ナイル言語群、東部語族、ロツゾテソ語族、ロツゾマア語族、ロツゾ語族。[63]

ルワ語

使用地域：80,000 人（国勢調査 1983 年）。スーダン南部、Wau の北から Aweil にかけて、Wau の東南から Tonj まで。

別称：LWO, JUR LUO, JUR LWO, JO LWO, DHE LWO, DHE LUWO, GIUR。

言語分類：ナイロサハラ語族、東スーダン語族、ナイル言語群、西部語族、ルオ語族、北部語族、ジュル語族。[63]

マバアン語

使用地域：25,000 人から 50,000 人（SIL1987 年）。北部の Yabus 川及び Tombak 川と南部の Khor Daga との間にある Blue Nile 及び Upper Nile の境界。エチオピアは入らない。

別称：MAABAN, MEBAN, SOUTHERN BURUN, GURA, TUNGAN, BARGA, TONKO, ULU。

言語分類：ナイロサハラ語族、東スーダン語族、ナイル言語群、西部語族、ルオ語族、北部語族、マバンプルン語族、マバン語族。[63]

マンダリ語

使用地域：35,812 人（1952 年）。スーダン南部、バリ付近、Tali 周辺の一部地域、Tombe と Mongalla の間のナイル川方岸または両岸。

別称：MONDARI, MUNDARI, SHIR, CHIR, KIR。

言語分類：ナイロサハラ語族、東スーダン語族、ナイル言語群、東部語族、バリ語族。[63]

マッサレイト語

使用地域：スーダンの 145,000 人。使用国家全人口合計は 250,000 人（Doornbos 及び Bender1983 年）。

別称：MASALIT, MASSALIT, KAANA MASALA, JWISINCE。

方言：SURBAKHAL。

言語分類：ナイロサハラ語族、マバン語族、マバング語族、マッサリト語族。[63]

ミドブ語

使用地域：50,000 人（R Werner1993 年）。スーダン北部、Dar Fur Province、Jebel Midob、Omdurman 及び Gezira Aba の定住地域。中心地域は Malha である。

別称：MEIDOB, MIDOBI, TIDDA, TID, TID-N-AAL。

方言：SHELKOTA (SHALKOTA), KAAGEDDI, URRTI (UURTI)。

言語分類：ナイロサハラ語族、東スーダン語族、東部語族、ヌビア語族、西部語族。[63]

モロ語

使用地域：Abu Leila 族と Lebu 族の 4,100 人、Umm Dore 族の 460 人及び Umm Gabralla 族（Voegelin 及び Voegelin1977 年）の 9,000 人を含めた 30,000 人（SIL1982 年）。スーダン北部、Nuba Mountains 東部、Kordofan Province。

別称：DHIMORONG。

方言：UMM DOREIN (LOGORBAN), UMM GABRALLA (TOBERELDA), NDERRE, LAIYEN, NUBWA, ULBA, WERRIA。

言語分類：ニジェールコンゴ語族、コルドファニア語群、コルドファニア語群固有、ヘイバン語族、中西部語族、西部語族。[63]

モル語

使用地域：Agi 族の 1,200 人、Andri,族の 2,500 人、Kadiro 族の 5,000 人、Miza 族の 9,000 人及び Wa'di 族の 400 人を含めた 70,000 人（SIL1982 年）。スーダン南部、Mundri District、Equatoria Province。

別称：KALA MORU。

方言：AGI, ANDRI, 'BALI'BA, KADIRO, LAKAMA'DI, MIZA, MORUWA'DI。

言語分類：ナイロサハラ語族、中央スーダン語族、東部語族、モルマディ語族、北部語族。[63]

ムンドゥ語

使用地域：スーダンの 23,000 人。使用国家全人口合計は 25,800 人。

別称：MUNDO, MOUNTOU, MONDU, MONDO。

方言：SHATT。

言語分類：ニジェールコンゴ語族、大西洋コンゴ語族、ヴォルタコンゴ語族、北部語族、アダマワウバンジ語族、ウバンジ語族、セレギバカンバ語族、ギバカンバ語族、ギバカ語族、東部語族、ムンドゥ語族。[63]

ムルレ語

使用地域：スーダンで 60,000 人（SIL1982 年）。使用国家全人口合計は 60,200 人。

別称：MURELEI, MERULE, MOURLE, MURULE, BEIR, AJIBBA, AGIBA, ADKIBBA。

言語分類：ナイロサハラ語族、東スーダン語族、東部語族、Surmic、南部語族、南西部語族、ディディンガムルレ語族、ムルレ語族。[63]

ウドゴ語

使用地域：20,000 人（1993 年）。スーダン南部、Mboro 川と Kpango 川との間の Wau-Deim Zubeir Road 沿いの Western District。Zande の中の Tembura の北にある少数地域。CAR は入らない。

言語分類：ニジェールコンゴ語族、大西洋コンゴ語族、ヴォルタコンゴ語族、北部語族、アダマワウバンジ語族、ウバンジ語族、セレギバカンバ語族、セレ語族、セレビリ語族、ウドゴセレ語族。[63]

ギレ語

使用地域：Dagik 族を含めた 38,000 人（SIL1982 年）。スーダン北部、Kordofan Province、Nuba Mountains、Mesakin Hills の遠隔の丘陵地域。

別称：MASAKIN, MESAKIN, DALOKA, TALOKA, DARRA。

方言：AHEIMA (EL AKHEIMAR), DALOKA (TALOKA), MASAKIN GUSAR (MESAKIN QUSAR, MASAKIN BURAM), MASAKIN TUWAL (TIWAL, TOWAL)。

言語分類：ニジェールコンゴ語族、コルドファニア語群、コルドファニア語群固有、タロディ語族、タロディ語族固有、ギレデングェブ語族。[63]

ノビイン語

使用地域：スーダンの 295,000 人（1996 年）。使用国家全人口合計は 545,000 人。

別称：MAHAS-FIADIDJA, MAHAS-FIYADIKKYA, FIADIDJA-MAHAS。

方言：MAHAS (MAHASI, MAHASS), FIYADIKKA (FEDICCA, FADICHA, FADICCA, FADIJA, FIADIDJA)。

言語分類：ナイロサハラ語族、東スーダン語族、東部語族、ヌビア語族、北部語族。[63]

ヌエル語

使用地域：Western Jikany 族の 2,935 人、スーダンで Lou 族の 12,500 人、Nyuong 族の 1,100 人、Thiang 族の 2,500 人、Bul 族の 5,900 人、Jagai 族の 2,400 人、

Laak 族の 6,700 人、Leik 族の 4,900 人、Door 族の 1,600 人及び Eastern Jikany 族の 17,600 人 (Voegelin 及び Voegelin1977 年) を含めた 740,000 人 (SIL1982 年) 使用国家全人口合計は 805,000 人。

別称：NAATH, NAADH. Dialects: DOR (DOOR), EASTERN JIKANY (JIKAIN, JEKAING), ABIGAR, WESTERN JIKANY, CIEN, THOGNAATH (THOK NATH), LOU (LAU), NYUONG, THIANG (BUL, GAWAAR, JAGAI, LAAK, LEIK)。

言語分類：ナイロサハラ語族、東スーダン語族、ナイル言語群、西部語族、デインカヌエル語族、ヌエル語族。[63]

オツホ語

使用地域：Dongotono 族 (1998 年)、Koriot 族の 2,500 人及び Lomya 族の 1,000 人 (Voegelin 及び Voegelin1977 年) を含めた 135,000 人。スーダン南部、Torit District、Equatoria Province 東部、Luluba と Lokoya の東部及び東南部。

別称：LOTUKO, LOTUHO, LOTUXO, LOTUKA, LATTUKA, LATUKO, LATUKA, LATOOKA, OTUXO, OLOTORIT。

方言：KORIOK, LOGIRI (LOGIR), LOMYA (LOMIA), LORWAMA, LOWUDO (LOUDO, LAUDA), LOGOTOK。

言語分類：ナイロサハラ語族、東スーダン語族、ナイル言語群、東部語族、ロツゾテソ語族、ロツゾマア語族、ロツゾ語族。[63]

パリ語

使用地域：28,000 人 (SIL1987 年)。スーダン南部、Upper Nile Province。

別称：LOKORO。

言語分類：ナイロサハラ語族、東スーダン語族、ナイル言語群、西部語族、ルオ語族、北部語族、未分類。[63]

シルク語

使用地域：175,000 人 (SIL1982 年) スーダン南部、Upper Nile Province、Nile と Kordofan Province の境界、北から緯 11 度から Tonga の西約 80 マイルまで、ナイル川と Sobat 川の合流付近のナイル川東岸。Sobat 川上流域約 20 マイルの範囲。

別称：COLO, DHOCOLO, CHULLA, SHULLA。

言語分類：ナイロサハラ語族、東スーダン語族、ナイル言語群、西部語族、ルオ語族、北部語族、シルク語族。[63]

テガリ語

使用地域：35,738 人 (R C Stevenson1984 年)。スーダン北部、Kordofan Province、Nuba Mountains、Tegali Range、Rashad hills、Rashad の町。

別称：TAGALE, TEGELE, TOGOLE, TEKELE。

方言：RASHAD (KOM, NGAKOM, KOME), TEGALI。

言語分類：ニジェールコンゴ語族、コルドファニア語群、コルドファニア語群固有、ラシャダ語族。[63]

ティラ語

使用地域：40,000 人（SIL1982 年）。スーダン北部、Nuba Hills の Otoro 付近から Talodi 近隣までの村。

別称：TIRO, THIRO, LITHIRO。

方言：KINDERMA (KANDERMA), TIRA EL AKHDAR (TIRA DAGIG), TIRA LUMUM (LUMAN), TIRA MANDI。

言語分類：ニジェールコンゴ語族、コルドファニア語群、コルドファニア語群固有、ヘイバン語族、中西部語族、西部語族。[63]

トボサ語

使用地域：100,000 人（M Schroeder1984 年）。スーダン南部、Singaita 川及び Lokalyen 川両岸。南の境界は北緯 4.30 度、北側で北緯 5 度、西側で東経 33.22 度、東側で東経 34 度である。儀式の中心は Loyooro River である。Toposa 族は Moruangipi（東経 34.30 度、北緯 5.10 度）まで移動し、時々牧畜のためにさらに東のエチオピア国境の Ilelmi Triangle にまで行くこともある。彼らはそこに定住はしない。Jiye 族は北緯 5.20 度、東経 33.45 度の地点で生活している。

別称：TAPOSA, TOPOTHA, AKARA, KARE, KUMI。

方言：EASTERN TOPOSA, WESTERN TOPOSA, JIYE。

言語分類：ナイロサハラ語族、東スーダン語族、ナイル言語群、東部語族、ロツゾテソ語族、テソツルカナ語族、ツルカナ語族。[63]

ザギヘワ語

使用地域：スーダンの 102,000 人（SIL1982 年）。使用国家全人口合計は 186,800 人。

別称：SOGHAUA, ZEGGAOUA, ZAGAOUA, ZORHAUA, ZAGAWA, ZAHAWA, ZEGHAWA, ZAUGE, BERRI, BERI, BERI-AA, MERIDA, KEBADI, KUYUK。

言語分類：ナイロサハラ語族、サハラ語族、東部語族。[63]

ザンデ語

使用地域：スーダンの 350,000 人（SIL1982 年）。スーダン南部、主に DRC 及び Uele River を中心にして CAR の細長い半円形の土地。そこからさらに南の地域にも広がっているという推測もある。

別称：SOGHAUA, ZEGGAOUA, ZAGAOUA, ZORHAUA, ZAGAWA, ZEGHAWA, ZAUGE, BERRI, BERI, BERI-AA, MERIDA, KEBADI, KUYUKI。

方言：DIO, MAKARAKA (ODIO)。

言語分類：ニジェールコンゴ語族、大西洋コンゴ語族、ヴォルタコンゴ語族、北部語族、アダマワウバンジ語族、ウバンジ語族、ザンデ語族、ザンデザカラ語族。[63]

付属資料 F：スーダンの宗教

本一覧は全ての宗教を網羅したものではない。

2006 年 9 月 15 日発行の 2006 年版 USSD 国際信教の自由報告書 (USSD report on International Religious Freedom 2006) には次のように記載されている。「スーダンに人口は推定 4,100 万人で、面積が 967,500 平方マイルである。長期にわたる内戦の影響で正確な人口及び人口統計データは入手することができない状態であり、最近の国勢調査の数字もない。人口の推定 3 分の 2 から 4 分の 3 は北部の 15 州に住んでおり、一般的にアラビア語圏のセム族を先祖としている。残りの 4 分の 1 から 3 分の 1 は南部に住んでおり、大部分がナイル川流域の民族で、中には英語を共通語として使っている人たちもいる。長期の内戦の間、400 万人以上の IDPs が南部から北部へと逃れていった。CPA 調印後数十万人が南部へと戻っていったが、今なお北部の都市及びその周辺に留まっている人のほうがはるかに多い。」 [3f] (第 I 節：宗教的な人口統計)

イスラム教

国家宗教。スーダンのイスラム教には強力なスーフィ信者がおり、1,500 万人以上の信奉者がいると推定されている。[1a] (1114 ページ) イスラム教指導者たちの推定するところでは、同国のイスラム教徒は全人口の 80 パーセント以上に当たる 3,200 万人に達するとされている。大部分がスンニー派で、シーア派の地域は狭い。異なるイスラム教の伝統の信奉者たちの間には厳然とした区別が存在する。スンニー派内の最も厳格な区別は、スーフィ信仰を巡って生まれる。2 つの代表的なスーフィ信奉派である Ansar 派と Khatmia 派は、それぞれ野党である Umma Party 及び Democratic Unionist Party を支持している。[3f] (第 I 節：宗教的な人口統計)

キリスト教

Sudan Council of Churches— Paolino Lukudu Loro 師 (Juba のローマカトリック大司教) が議長を務め、書記長は Clement H Janda 師である。[1a] (1114 ページ) EB 2004 の説明によると、キリスト教徒はスーダンの人口の 4 パーセントから 10 パーセントに当たるとされる。[1a] (1088 ページ)

USSD report on International Religious Freedom 2006 には次のように記載されている。「正確な宗教的データは入手できていない。特に届出済みの宗教団体

の所属メンバーの合計は確認することができず、古い国勢調査の数字は正確なものではない。一般的に言って、北部ではイスラム教が優勢であり、一方南部では、伝統的な土着信仰（アニミズム）及びキリスト教が広く信じられている。」
[3f]（第Ⅰ節：宗教的な人口統計）

Roman Catholic Church

首都 Khartoum の大司教：Gabriel Zubeir Wako 枢機卿。[1a]（1114 ページ）
Juba の大司教：Paolino Lukudu Loro 師。[1a]（1114 ページ）

Latin Rite: スーダンは2つの大司教管区及び7つの教区から構成されている。2002年12月31日時点で、人口の9.7パーセントに当たる推定4,179,932人が信奉者であるとされている。[1a]（1114 ページ）

Sudan Catholic Bishops' Conference

Paolino Lukudu Loro 大司教が1971年に創設した。[1a]（1114 ページ）

Maronite Rite: Maronite Church in Sudan

Youseph Neama 神父。[1a]（1114 ページ）

Melkite Rite: エジプト及びスーダンの総主教の教区

エジプト及びスーダンの総主教：Jules Zerey（Damiette の名義司教）、総主教代理：Paul Antaki 大司教（Nubia の名義司教）、スーダンの主教：George Banna 神父。[1a]（1114 ページ）

Syrian Rite: スーダンのシリア教会

Antioch 大司教の管轄の下にある。大司教代理：Joseph Hannouche 司教（Cairo の主教）[1a]（1114 ページ）

ギリシア正教会

Coptic Orthodox Church: 首都 Khartoum、スーダン南部及びウガンダの都市部

Anba Danial 大司教。[1a]（1114 ページ）
Atbara、Omdurman 及びスーダン北部の主教。
Anba Sarabamon 大司教。[1a]（1114 ページ）

Greek Orthodox Church

Nubia 府主教：Dionyssios Hadzivassiliou. [1a]（1114 ページ）

Europa 2005 によると、Ethiopian Orthodox Church も活発な布教活動を行っているという。 [1a] (1114 ページ)

The Anglican Communion

スーダンの大主教：Joseph Biringi。 [1a] (1114 ページ)

The (Episcopal) Church of the Province of the Sudan

1976 年に創設され、24 の教区を持ち、およそ 100 万人の信者を抱えている。 [1a] (1114 ページ)

その他のキリスト教会

Evangelical Church

Radi Elias 師が議長を務める。およそ 1,500 名の信者を抱え、学校、文化施設及び養成所の管理を行っている。 [1a] (1114 ページ)

Presbyterian Church

1956 年から自主運営しており、Thomas Maluit 師が書記長を務める。およそ 67,000 名の信者を抱えている。 [1a] (1114 ページ)

SIM Sudan

1937 年に創設され、L Dick 氏が代表を務める。 [1a] (1114 ページ)

Europa 2005 によると、Africa Inland Church、Sudan Interior Church 及び Sudanese Church of Christ も活発な布教活動を行っているという。 [1a] (1114 ページ)